

---

<参考資料>

福島第一原子力発電所の  
敷地境界外に影響を与えるリスク総点検  
～ 検討結果 ～

2015年4月28日  
東京電力株式会社

## ■ご説明内容

---

### 0. 概要

#### 1. 経緯

#### 2. リスクの総点検の実施

#### 3. 実施内容

3-1. 対象項目の抽出と追加対策の必要性の評価

3-2. 対象項目の抽出

3-3. 対象項目の整理(流出経路の評価)

#### 4. リスクの総点検の結果

4-1. 対象項目の整理結果

4-2. 追加対策の必要性評価の結果

4-3. 追加対策の必要性評価の結果(調査が必要な項目)

4-4. 追加対策の必要性評価の結果(対策が必要な項目)

#### 5. 今後

## 0. 概要

---

- 福島第一の敷地境界外に影響を与える可能性があるリスクを広く対象とした、リスクの総点検を実施。
- 液体とダストを中心に、リスク源の洗い出しと、流出経路や作業の洗い出しを行い、対象とすべき190項目を抽出した。
- 抽出した項目については従前から把握していたものも含め、今回、新たな視点で改めて評価し、追加対策の必要性などを整理したもの。
- リスクの総点検の結果、124項目は、対策済み、対策中、もしくはリスクが十分低いと整理。
- 残りの66項目の内訳は、  
早急に追加対策を実施するものが1項目（本年5月に対策実施予定）、  
早期もしくは順次、追加対策を実施するものが20項目、  
調査が必要なものが45項目。
- 今後、優先度等から対策の内容や時期等を検討し、敷地境界外に影響を与えるリスクの更なる低減を図る。

# 1. 経緯

<2013年9月>

## 逐次的な事後対応

- 汚染水の増大  
→ボルト締め型タンク等の製造
- タンク等からの汚染水の漏えい  
→汚染水・汚染土壌の回収  
など



## 汚染水問題に関する基本方針

(9月3日 原子力災害対策本部決定)

『従来のような逐次的な事後対応ではなく、想定されるリスクを広く洗い出し、予防的かつ重層的に抜本的対策を講じる』

<2013年12月>

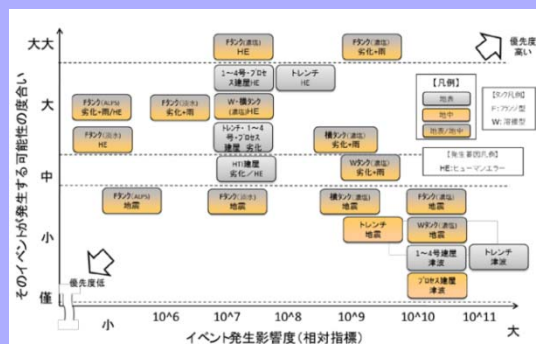
## 予防的・重層的な汚染水処理対策

- ①汚染源を「**取り除く**」
  - ◆多核種除去設備による汚染水浄化
  - ◆トレンチ内の高濃度汚染水の除去
- ②汚染源に水を「**近づけない**」
  - ◆地下水バイパスによる地下水の汲み上げ
  - ◆建屋近傍の井戸(サブドレン)での汲みあげ
  - ◆凍土方式の陸側遮水壁の設置
  - ◆雨水の土壌浸透を抑える敷地舗装
- ③汚染水を「**漏らさない**」
  - ◆水ガラスによる地盤改良
  - ◆海側遮水壁の設置
  - ◆タンクの増設  
(溶接型タンクへのリプレイス等)

等

等

等



(リスキマップ)

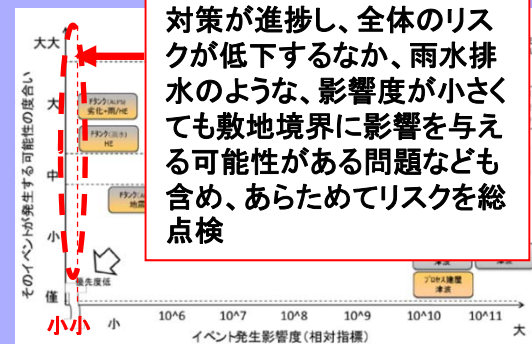
<2015年2月>

## リスクの総点検

(高木経済産業副大臣からの指示事項)

- ✓ 現時点で考えられるリスクについて、被災された住民や国民の視点に立って、あらためて網羅的に総点検を行い、現在の状況に見合った対策を示し、必要な情報の提供を行うこと。

- ✓ リスクの総点検に際しては、対策の進捗もふまえて、福島第一原発の敷地境界外に影響を与える可能性があるものを広く対象とすること。



(さらに対象を広くしたリスキマップ)

## 2. リスクの総点検の実施

■福島第一原子力発電所の敷地境界外に影響を与える可能性があるものを広く対象とし、**リスク低減に向けた課題を体系的に整理した。**

### 【1】液体、ダストによる影響

・ 汚染源によらず、全て検討の対象とした

(注) 火事・人的要因による流出、油・薬品（硫酸・苛性ソーダ等）の流出は、リスクとして抽出し、引き続き詳細な評価・整理を行う

### 【2】低頻度の外部事象

・ 竜巻、航空機落下、地震・津波

→ 関係機関と安全確保の考え方につき議論を深めたうえで、リスクおよび対策を別途検討

### 【3】液体、ダスト以外の影響

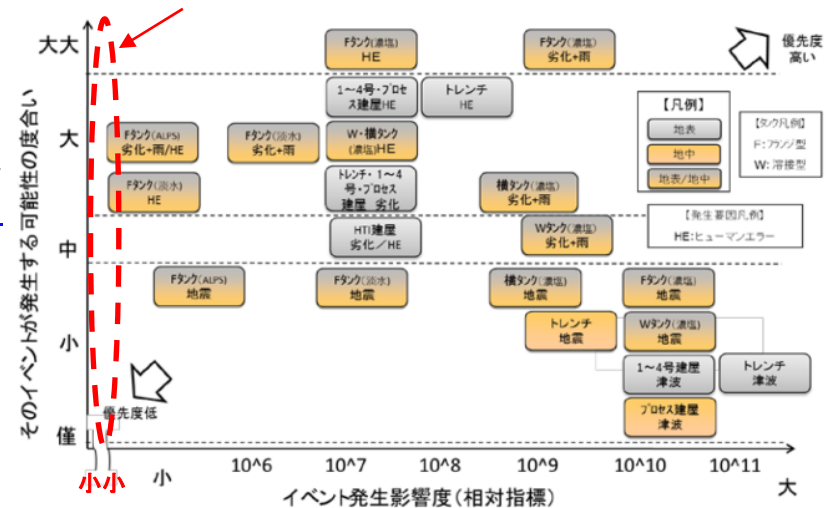
・ デブリ再臨界、デブリ・使用済み燃料の冷却停止

→ デブリ再臨界の可能性は、現状では極めて低い。再臨界の可能性を高める変化（水位の増加やデブリの集中）が生じる可能性のある作業を行う前に、個々の課題を検証し対策を講じる。  
→ 冷却停止しても、代替案を講じる時間が十分にある。この時間内に、敷地外への影響を及ぼさないよう機動的に対処可能。

(デブリ) 冷却停止後63時間程度は周辺公衆に対し著しい放射線被ばくの恐れはない[注]

(使用済み燃料) 冷却停止後プール水温度が運転制限値（65℃）に到達するまで100時間以上

全体のリスクが低下するなか、影響度が小さくても敷地境界に影響を与える可能性のある課題も含め評価



(さらに対象を広くしたリスクマップ\*)

\*: 汚染水処理対策委員会によるリスクマップ (2013.12)に追記

[注] 敷地境界にて年間5mSvとなること。  
2014.10.1現在の評価値。

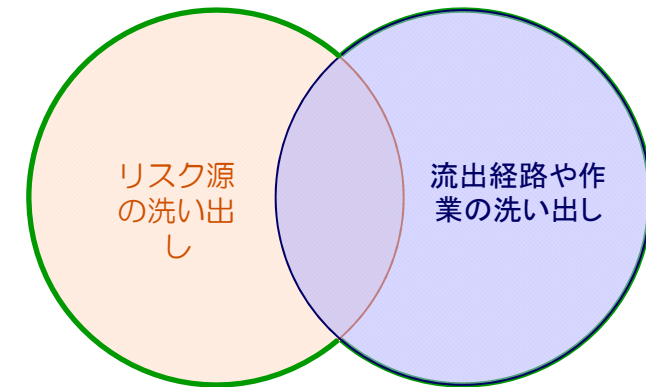
### 3-1. 対象項目の抽出と追加対策の必要性の評価

■ リスクの総点検においては、敷地境界外に影響を与える可能性がある対象項目を抽出し（①）、抽出した項目毎に追加対策の必要性を評価した（②）。

#### ①対象項目の抽出

- 点検にあたって、起因事象に関わらず、放射性物質など「リスク源」を洗い出した。
- 並行して「流出経路(液体)」や「作業(ダスト)」を洗い出した。
- 上記、いずれかで抽出されたものを対象項目とした。

#### 対象項目の抽出



#### ②抽出した項目毎に追加対策の必要性評価

- 抽出した項目毎に、その状況(量・放射性物質の濃度データの有無、対策実施状況等)を確認し、今後の追加対策の必要性について、以下に分類した。
  - (1) 調査が必要(今後リスクとなる可能性があるか調査が必要)
  - (2) 対策が必要(現状の対策に加え、追加的に対策が必要)
  - (3) 対策実施中
  - (4) 対策実施後の状況観察中
  - (5) 現状では追加対策不要
- 上記(2)については、敷地外への影響の可能性や放射性物質の濃度などから、対策の優先度を整理した。

## 3-2. 対象項目の抽出

■対象項目の抽出に当たっては、これまで優先的に対策を講じてきている項目に加え、それ以外に敷地境界外に影響を与える可能性のある項目を整理した。

### ◎放射性物質が液体として敷地外(海を含む)に流出する可能性のある項目について

これまで、リスクの高い汚染水に対し、優先的に対策を講じてきているが、それ以外に敷地境界外に影響を与える可能性のある項目について、リスク源と経路の観点から広く洗い出した。

#### ◎これまで優先的に対策を講じてきているリスクの高い汚染水

- 2～4号機海水配管トレンチたまり水  
【対策】汚染水の除去・トレンチの充填
- 建屋内滞留水  
【対策】滞留水の浄化、地下水バイパス、サブドレン、陸側遮水壁等
- タンク貯留水  
【対策】濃縮塩水の浄化、タンク増設、溶接タンクへのリプレイス、堰のかさ上げ・二重化等
- タンク堰内雨水  
【対策】雨水浄化処理・散水
- タービン建屋海側の汚染土壌  
【対策】水ガラスによる地盤改良



#### ◎それ以外に敷地境界外に影響を与える可能性のある項目について広く洗い出しを実施

- 2～4号機海水配管トレンチ以外のトレンチ類内のたまり水
- 放水路
- 屋外にあるその他のたまり水  
(サンプ等のピット類、埋設管、井戸、仮置きタンク等)
- 降雨の雨水が汚染される可能性のあるもの  
(廃棄物置き場、瓦礫、建屋屋根、排水路、防油堤等のピット類)等

### ◎ダストが発生する可能性のある項目について

これまで、3号機オペフロ瓦礫撤去作業、1号機カバ―解体作業等においてダスト飛散抑制対策を講じてきているが、その他、作業等によりダストが発生し、敷地境界外に影響を与える可能性のある項目について、リスク源と作業の観点から広く洗い出した。

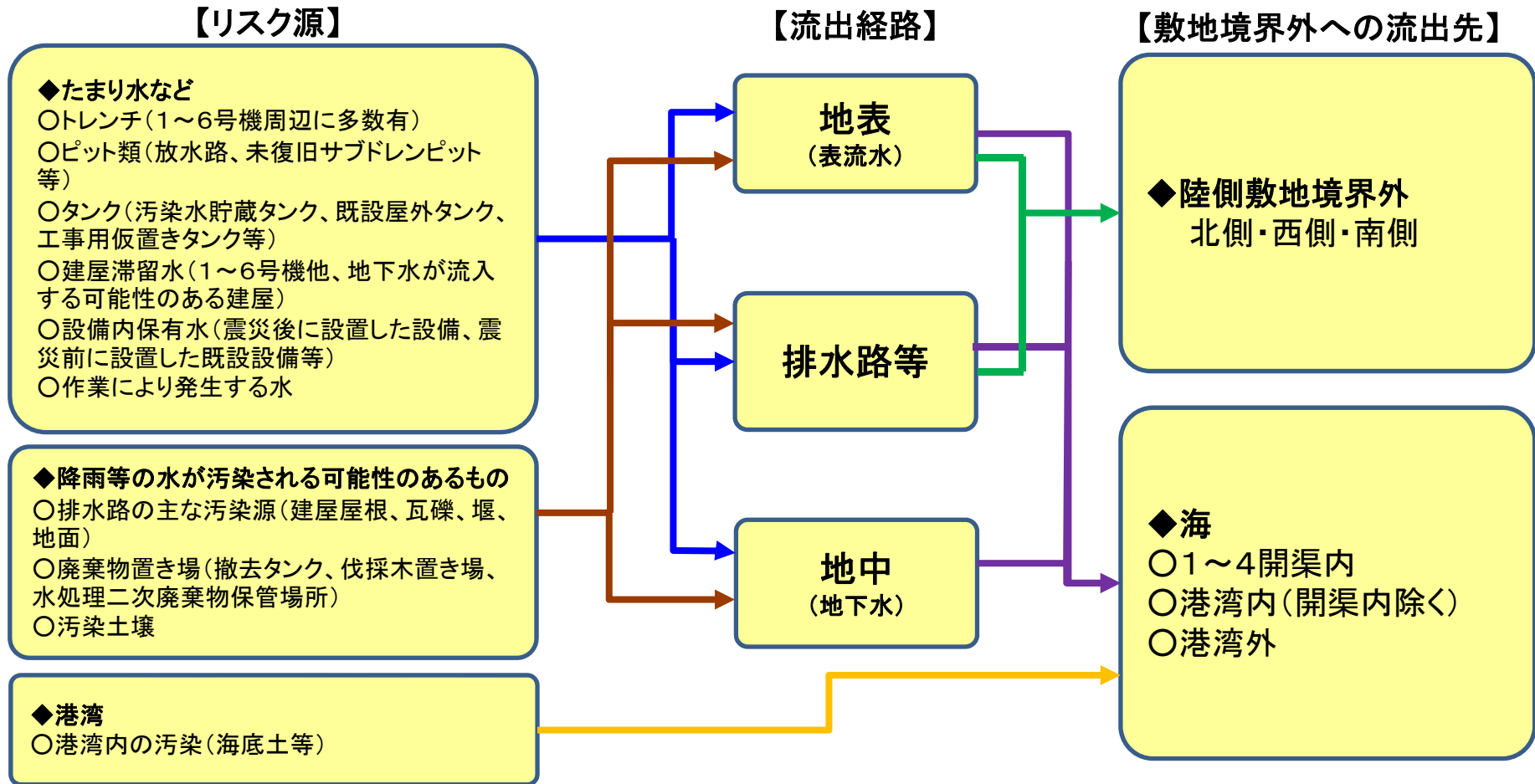
#### ◎ダストが発生し、敷地境界外に影響を与える可能性のある項目について広く洗い出しを実施

- 建屋上部・瓦礫撤去作業
- 廃棄物置き場
- タンク解体作業 等



### 3-3. 対象項目の整理(流出経路の評価)

■対象項目の抽出に当たっては、リスク源の配置や想定される漏えい状況に応じ、敷地境界外に流出する経路を整理した。

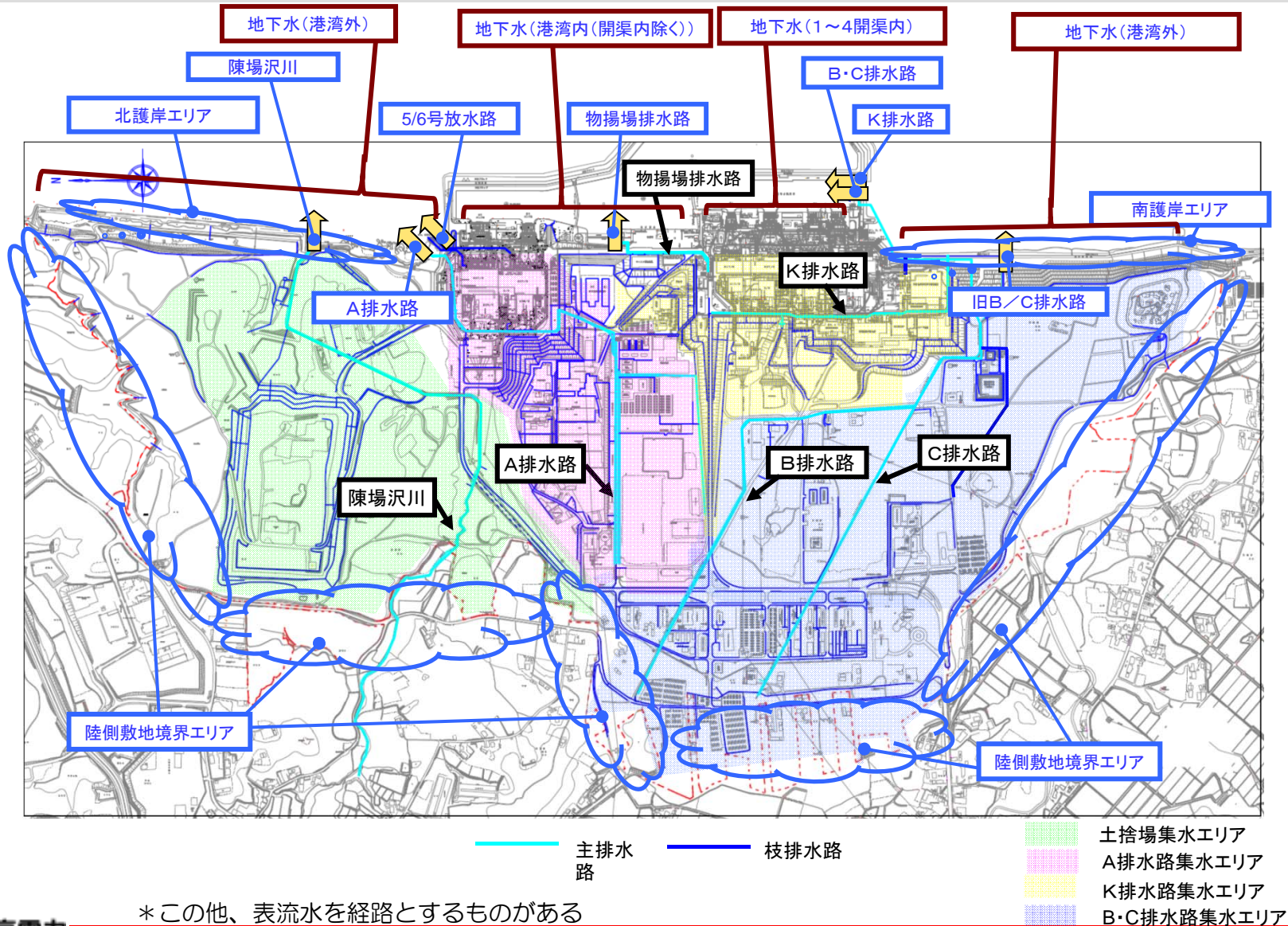


敷地外への流出の可能性のある経路(液体)



### 3-3. 対象項目の整理(流出経路の評価)

■ 流出経路については、現場確認等により敷地周辺の排水溝も含め整理した。



## 4-1. 対象項目の整理結果

- リスクの総点検の結果、190項目について体系的に整理した。  
(液体漏出：159項目、ダスト発生：31項目)
- これらのうち、対策が必要なものについては、今後、優先度等から、対策内容・時期等の検討を行う。

### 【新たに抽出した対象項目】

#### (1) 現場調査等により、事実関係を確認したもの

- ・ 敷地周辺の排水側溝

敷地境界付近には敷地内から敷地外に通ずる排水溝や土管が存在することにつき、現場調査等により、排水溝や土管の位置を確認し、雨水等の流出経路として整理結果に反映した。

#### (2) 流出経路とリスク源の関係から、敷地外への影響との関係性を整理したもの

- ・ 排気筒ドレンサンプ、廃棄物保管エリア、海水系設備内保有水

課題として認識していたが、排水路や陳場沢川、海水系配管などを流出経路とする項目として整理した。

#### (3) 新たな事実関係により、抽出したもの(2015.2.26以降に発生した事例)

- ・ 吸着塔一時保管施設(HIC)

吸着塔一時保管施設に保管しているHICに水溜まりが確認された。

HICからの漏えいによる敷地外への影響につき、評価を見直し中(今回は、「(4)．対策実施後の状況観察中」と分類したが、今後の調査結果により追加対策を実施する)。

- ・ 使用済燃料プール水

3号使用済み燃料プールのプールゲート調査結果により、プールのバウンダリ機能が損なわれる課題を再認識した。

- ・ 火災や人的要因

車両部品や電気ケーブルから屋外で火災が発生した事例を踏まえ、火災や人的要因により敷地境界に影響を与える可能性のある課題について、共通的な対策を考慮すべき項目として再認識した。

## 4-2. 追加対策の必要性評価の結果

■ 追加対策の必要性の評価結果を以下に示す。

	主たる流出経路	追加対策の必要性					計
		(1)調査が必要	(2)対策が必要	(3)対策実施中	(4)対策後状況観察中	(5)追加対策不要	
水	K排水路	6	3	2	7	1	19
	A排水路	3	1	1	7	1	13
	B・C排水路	1	2	14	10	1	28
	その他排水路等	6	1	3	1	3	14
	地下水(1~4号開渠内)	8	5	20	8	3	44
	地下水(港湾内)	5	2	0	3	10	20
	地下水(港湾外)	5	2	2	2	2	13
	表流水	1	0	1	1	0	3
	港湾	0	0	1	0	1	2
	共通	1	0	2	0	0	3
計	36	16	46	39	22	159	

早急に実施するもの：1項目  
 早期に実施するもの：5項目  
 順次実施するもの：10項目

	主たる流出経路	追加対策の必要性					計
		(1)調査が必要	(2)対策が必要	(3)対策実施中	(4)対策後状況観察中	(5)追加対策不要	
ダスト	作業に伴い発生	3	2	5	0	0	10
	破損に伴い発生	4	2	0	6	0	12
	その他	2	1	2	2	0	7
	共通	0	0	2	0	0	2
計	9	5	9	8	0	31	

早期に実施するもの：5項目

### 4-3. 追加対策の必要性評価の結果(調査が必要な項目)

- 「調査が必要」と評価したものは45項目。
- これらのうち、一部(排水路の汚染源等)は、調査を継続中。一方、調査に伴う被ばく線量、採水が困難、分析能力の逼迫等により未調査の箇所もある。
- また、現状顕在化していないが、今後リスクとなる可能性があるものについても整理した。
- 今後、調査における課題を解決しつつ、汚染レベルや敷地外影響の可能性の観点から、順次調査を実施していく。

#### 【未調査の例】

- ◆調査に伴う被ばく線量が大きいいため、未調査であった例  
排気筒ドレンサンプピット(1・2号)
- ◆採水が困難であったため、未調査であった例  
海水系配管内(1~4号循環水配管等)
- ◆汚染レベルや流出リスクが高いものに対して優先的に調査・対策を実施していたため、未調査であった例
  - ・汚染レベル低と想定したリスク  
1~4号から離れたエリアの地面/立木/建屋屋根/5・6号機ピット類/排水溝/陳場沢川、  
廃棄物置き場、伐採木置き場 等
  - ・流出する可能性が低いと想定したリスク  
設備内保有水、建屋滞留水、防油堤 等



#### 4-4. 追加対策の必要性評価の結果(対策が必要な項目)

- 「対策が必要」と評価したものは21項目。
- 今後、下記優先度、他の廃炉作業との干渉などを考慮し、対策を検討・実施する。

##### 【対策が必要な項目の優先度の整理】

○既存の対策に加え、早急に追加対策を実施するもの：1項目（本年5月に対策実施予定）

対象：堅牢ではない箇所にある、高濃度の汚染源  
（2号原子炉建屋近傍サブドレンピット#16）

○早期に追加対策を実施するもの：10項目

対象：堅牢ではない箇所にある、比較的高濃度の汚染源  
（屋根たまり水、屋外たまり水、汚染の確認された土壌）  
作業や設備損傷等によりダストの発生する可能性のある箇所  
（フランジタンク解体作業、ガレキ類一時保管エリアのシート養生、等）

○順次、追加対策を実施するもの：10項目

対象：堅牢な箇所にある汚染源  
堅牢ではない箇所にある、低濃度の汚染源  
（建屋内たまり水、設備内たまり水、低濃度の屋外たまり水、低濃度のタンク水）

## 5. 今後

- 今回実施したリスクの総点検の結果を踏まえ、優先度に応じて今後対策を実施していくものであるが、**廃炉作業の進捗に応じた環境の変化によりリスクは変化**していくものであり、この変化を適宜反映しながら**継続的に管理**していく。
- 継続的な管理に際しては、**有識者や地元の方々等のご意見**を踏まえ、リスクの低減に努めていく。

### 優先度に応じた追加対策の実施

- 「対策が必要」なものについては、優先度を考慮しつつ、対策の具体的な内容を検討した上で、順次着手する。
- 実施にあたっては、今回整理した優先度に加え、調査上の課題（被ばく、採水の困難さ、分析能力）、他の廃炉作業やリスク低減対策との干渉（作業エリア、リソース配分等）などの条件を踏まえ、調査・対策の時期と内容を検討し実施する。

### 状況変化を踏まえた定期的な見直し

- リスクの総点検については、現場の状況変化を元に、現地調整会議等での検討を踏まえ、定期的に見直しを行うとともに、公表する。
- 廃炉作業の進捗に応じ変化するリスクを幅広く抽出し、福島第一全体のリスクを低減させることを目指す。

## 【参考】情報公開に関する新たな取組について(3月30日公表)

福島第一原子力発電所構内のK排水路に係わる情報公開の問題について、福島県の皆さまをはじめとする社会の皆さまにご心配、ご迷惑をおかけしまして、深くお詫び申し上げます。

### 1. 新たな情報公開の仕組み

- ① 当社が福島第一原子力発電所で測定する全ての放射線データを公開する
- ② データはWEB等で広く公開し、特に社会的関心の高いものは会見等で解説する
- ③ 新たな公開ルールと運用実績等は定期的に社外から監視・評価を頂き、透明性・信頼性を高める

### 2. コミュニケーションに関する組織のあり方

### 3. 地域のステークホルダーとの対話の充実

- ① 「福島県原子力発電所所在町情報会議」\*1をベースに新しい意見交換の場の設立
- ② 各自治体行政区、仮設住宅自治会への説明訪問強化
- ③ 首都圏のステークホルダー \*2への説明訪問強化

<参考:現在設置されている会議体の例>

「廃炉・汚染水対策福島評議会」(国主催、2014/2~)

メンバー:経済産業副大臣、福島県・周辺自治体首長、地元関係団体・有識者、  
規制当局、廃炉・汚染水対策チーム、当社(石崎代表、増田CDO)

\*1: 発電所の業務運営に関する情報を立地町の方々にご説明し、ご意見をいただく会議(2003/1発足)

\*2: 有識者、経済団体、消費者団体等



リスクの総点検  
結果一覧表

2015年4月28日  
東京電力株式会社

(1)調査が必要
(2)対策が必要
(3)対策実施中
(4)対策実施後の状況観察中
(5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析						[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況			
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	量(m3)	放射線物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可) (敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中
1	K排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(1)調査が必要	瓦礫	1～4号機周辺10m盤瓦礫	高線量瓦礫置き場 低線量瓦礫置き場 高線量大型瓦礫(仮置き鉄骨) 3号機瓦礫撤去用構台 震災当初の瓦礫(地中)	1～4号機原子炉建屋周 り10m盤	-	-	対象外	・雨水	・降雨	K排水路	・瓦礫→排水路→海 ・瓦礫→地中→海	①排水路出口 ②SDビット	①不定期 毎日(H27.1.19以 降) ②週3回	・排水路の汚染源を順次調 査中	-
2	K排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(1)調査が必要	建屋屋根	1～4号機R/B等屋根(水質未調査)	1、3、4号機R/B 1～4号機Rw/B 1、3、4号機R/B大物搬入口屋上 プロセス主建屋 高温焼却炉建屋 共用プール建屋 等	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	K排水路	・屋上→雨樋→排水路→海 ・屋上→雨樋→地中→海	①排水路出口 ②SDビット	①不定期 毎日(H27.1.19以 降) ②週3回	・排水路の汚染源を順次調 査中	-
3	K排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(1)調査が必要	タンク堰等	K排水路流域防油堤等	No.4.5軽油タンクフェンス 1～4号機変圧器防油堤 EBST防油堤 EBTr防災地下タンク	1～4号機周辺	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	K排水路	・堤内→側溝→排水路→海	①排水路出口 ②SDビット	①不定期 毎日(H27.1.19以 降) ②週3回	・優先度を踏まえ調査方法を 検討	-
4	K排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(1)調査が必要	建屋以外の構築物の上部	建屋以外の構造物の上部	・屋外タンク天板部	各所	-	-	対象外	・雨水	・降雨	K排水路	・屋上→雨樋→排水路→海 ・屋上→雨樋→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以 降)	優先度を踏まえ調査方法を 検討	-
5	K排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(3)対策実施中	建屋屋根	2号機大物搬入口屋上	・2号機大物搬入口屋上	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	Cs134:6.4E3 Cs137:2.3E4 全β:5.2E4 Sr90:4.5 H3:6.0E2(H27.2.19)	公表済	・雨水	・降雨時に雨樋より流出	K排水路	・屋上→雨樋→排水路→海 ・屋上→雨樋→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以 降)	(a)屋上部排水溝にゼオライト 土壌を設置 (b)屋上部にブルーシートを設 置 (c)汚染源(ルーフブロック、 敷砂)の撤去	(a)(b)実施済 (c)実施中
6	K排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(5)現状では追加対策不要	建屋屋根	震災後に設置した建屋	サブドレン移送ポンプ建屋 セシウム吸着塔仮・第二仮保管施 設開閉式テント及びクレーン操作室 高台炉注ポンプ上屋 凍結プラント建屋(1)(2)/電気品建 屋 等	4m盤に存在する建屋 10m盤に存在する建屋 35m盤に存在する建屋	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	K排水路	・屋上→地表→地中→海 ・屋上→雨樋→排水路→海	①タービン建屋東 側地下水出口 ②排水路	①週1回 ②不定期 毎日(H27.1.19以 降)	-	-
7	K排水路	雨水の汚染源となるリスク 排水路・川	(3)対策実施中	排水路	K排水路	・K排水路 ・枝排水路	1～4号機建屋周り	降雨等により変動	【K排水路出口】 Cs134:29(2015/3/19) Cs137:100(2015/3/19) 全β:180(2015/3/19) H3:640(2015/3/18)	公表済	・雨水	・降雨	K排水路	・排水路→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以 降)	清掃の実施 ゼオライト土壌・モール状吸 着材の設置 排水路港湾内付け替え	実施中
8	K排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(2)対策が必要	建屋屋根	2号機R/B	・2号機R/B	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	【上屋】 Cs134:200～340 Cs137:650～1100 全β:920～1900 Sr90:10～20 H3:ND(<100) (採水H27.1.16)	公表済	・雨水	・降雨	K排水路	・屋上→雨樋→排水路→海 ・屋上→雨樋→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以 降)	・最も高温度の屋根(2号大 物搬入口屋上)から順次対 策中	-
9	K排水路	汚染源となる たまり水が存在する リスク	(2)対策が必要	1～4号機滞留水 処理設備	滞留水移送設備	・配管、ポンプ 等	屋外・建屋内	主ライン 延長 約3km	1～4号機滞留水と同等 【1号機T/B地下溜まり水】 Cs134:2.8E+5 Cs137:1.0E+6(2015/3/17) 【2号機T/B地下溜まり水】 Cs134:5.8E+6 Cs137:2.2E+7(2015/3/17) 【3号機T/B地下溜まり水】 Cs134:6.8E+6 Cs137:2.7E+7(2015/2/26) 【4号機T/B地下溜まり水】 Cs134:1.4E+5、Cs137: 48E+5、(2015/2/17)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	K排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→海	①パトロール ②排水路出口	①毎日 ②不定期 毎日(H27.1.19以 降)	・漏えいしにくいポリエチレン 管に変更	・実施済
10	K排水路	汚染源となる たまり水が存在する リスク	(4)対策実施後の状況 観察中	1～4号機滞留水 処理設備	セシウム吸着装置(KURION)	・吸着塔	屋外・建屋内	約130	【セシウム吸着装置処理後 水】 Cs134:ND Cs137:1.7E+2(2015/2/10)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	K排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→海	①パトロール ②排水路出口	①毎日 ②不定期 毎日(H27.1.19以 降)	・建屋内設置 ・漏えい検知器 ・パトロール	運用中
11	K排水路	汚染源となる たまり水が存在する リスク	(4)対策実施後の状況 観察中	1～4号機滞留水 処理設備	第二セシウム吸着装置(SARRY)	・吸着塔	屋外・建屋内	約20	【第二セシウム吸着装置処 理後水A系】 Cs134:ND Cs137:1.9E+2(2015/2/17) 【第二セシウム吸着装置処 理後水B系】 Cs134:6.9E+2 Cs137:2.6E+3(2015/2/17)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	K排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→海	①パトロール ②排水路出口	①毎日 ②不定期 毎日(H27.1.19以 降)	・建屋内設置 ・漏えい検知器 ・パトロール	運用中

(1)調査が必要 (2)対策が必要 (3)対策実施中 (4)対策実施後の状況観察中 (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析							[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況		
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	量(m3)	放射性物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可) (敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中
12	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保有水	(4)対策実施後の状況観察中	その他震災後設置設備	SFP代替冷却設備	・タンク、配管、熱交換器	屋外・建屋内	(1号機)約30 (2～4号機)約50	(1号機)Cs134:3.4E6、Cs137:1.4E7(H27.1.16) (2号機)Cs134:4.6E4、Cs137:2.6E5(H27.1.15) (3号機)Cs134:2.4E5、Cs137:8.1E5(H27.1.14) (4号機)Cs134:1.0E3、Cs137:6.7E3(H27.1.14)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	K排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→海	①スキマサージタンク水位 ②SFP水質 ③排水路出口	①常時 ②3ヶ月毎 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)腐食防止剤の投入 (b)塩分除去	実施済
13	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保有水	(4)対策実施後の状況観察中	その他震災後設置設備	原子炉注水設備	・タンク、配管	屋外・建屋内	約15000 (水源のタンク合計容量)	【淡水化装置出口水】 H3:4.3E5(H27.2.10) Sr90:2.7E3(H27.2.10)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	K排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→海	①バトロール ②排水路出口	①毎日 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・トラフ設置による漏えい拡散防止 ・漏えい検知器の設置 ・床漏えい検知器	実施済
14	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保有水	(4)対策実施後の状況観察中	その他震災後設置設備	モバイル式処理装置 (SFP/トレンチ/放水路浄化用)	・配管、ユニット	屋外	0	-	対象外	・無	・損傷等による系統外漏えい	K排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→海	①バトロール ②排水路出口	①1回/週 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・水抜き保管中	実施済
15	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(1)調査が必要	屋外既設タンク	1～4号機周辺10m盤屋外既設タンク (解体予定溶接タンク)	・2号廃液サージタンク	屋外(R/B西側)	未調査	未調査	-	・無	・解体作業に伴い流出する	K排水路	・堰内→地表→排水路→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・解体前に調査する予定	-
16	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	屋外既設タンク	その他屋外既設タンク (溶接タンク)	・4号CSTタンク(溶接タンク) ・1号機廃液サージタンク(溶接タンク) ・4号機廃液サージタンク(溶接タンク)	屋外(10m盤)	(4号機CST) 約1980	未調査	-	・無	・タンクからの漏えい	K排水路	・堰内→地表→排水路→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・堰	実施済
17	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(2)対策が必要	使用済燃料プール・ウェル・DSP	1～4号機SFP等	・1～4号機SFP ・4号機RPV・ウェル・DSP	1号機原子炉建屋 2号機原子炉建屋 3号機原子炉建屋 4号機原子炉建屋	(1号機SFP)約1000 (2号機SFP)約1200 (3号機SFP)約1400 (4号機SFP)約1400 (4号機RPV・ウェル・DSP)約1800	(1号機)Cs134:3.4E6、Cs137:1.4E7(H27.1.16) (2号機)Cs134:4.6E4、Cs137:2.6E5(H27.1.15) (3号機)Cs134:2.4E5、Cs137:8.1E5(H27.1.14) (4号機)Cs134:1.0E3、Cs137:6.7E3(H27.1.14)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	K排水路	・設備→建屋→地表→排水路→海	①スキマサージタンク水位 ②SFP水質 ③排水路出口	①常時 ②3ヶ月毎 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)腐食防止剤の投入 (b)塩分除去	実施済
18	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	汚染水等貯留タンク	SPT受入水タンク (Sr処理水/角型タンク)	・SPT受入水タンク (Sr処理水/角型タンク)	SPT建屋傍	約85 (タンク容量)	<上流> 【セシウム吸着装置処理後水】 Cs134:ND Cs137:1.7E+2(2015/2/10) 【第二セシウム吸着装置処理後水A系】 Cs134:ND Cs137:1.9E+2(2015/2/17) 【第二セシウム吸着装置処理後水B系】 Cs134:6.9E+2 Cs137:2.6E+3(2015/2/17) <下流> 【淡水化装置入口水】 Cs134:ND Cs137:1.8E+3 H3:4.1E+5(2015/2/10)	公表済	・建屋地下の汚染水	・タンクからの漏えい	K排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→堰内→地表→地中→海	①バトロール監視 ②排水路出口	①毎日 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・コンクリート堰の設置	実施済
19	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク ビット類	(1)調査が必要	排気筒ドレンサンピット	1～4号機周辺排気筒ドレンサンピット	・1/2号排気筒ドレンサンピット ・3/4号排気筒ドレンサンピット ・集中RW排気筒ドレンサンピット	1～4号機周辺	未調査	未調査	-	・雨水侵入 ・地下水	・雨水流入により溢水 ・ビット劣化・損傷により地中に漏出	K排水路	・ビット→地表→排水路→海 ・ビット→地表→地中→海 ・ビット→地中→海	①排水路出口 ②SDビット	①不定期 毎日(H27.1.19以降) ②週3回	・雰囲気線量が高く調査困難	-
20	A排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(1)調査が必要	建屋屋根	固体廃棄物貯蔵庫	・固体廃棄物貯蔵庫	敷地中央	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	A排水路	・屋上→雨樋→排水路→海 ・屋上→雨樋→地中→海	排水路	不定期 1回(H27.1.19以降)	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-

(1)調査が必要
(2)対策が必要
(3)対策実施中
(4)対策実施後の状況観察中
(5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析							[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況		
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	(1)水の状況				(2)流出経路			モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済／工事中	
							場所	量(m3)	放射線物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所					流出経路(複数可)(敷地外へ)
21	A排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(1)調査が必要	タンク堰等	A排水路流域防油堤等	・5、6号軽油タンクフェンス ・5、6号薬品タンク(硫酸・苛性)フェンス ・屋外 海生物重タンクフェンス	5/6号機海側	降雨等により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	A排水路	・堤内→側溝→排水路→海	①排水路出口 ②SDビット	①不定期 毎日(H27.1.19以降) ②週3回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
22	A排水路	雨水の汚染源となるリスク	(3)対策実施中	排水路	A排水路	・A排水路 ・枝排水路	35M盤敷地中央、5～6号機建屋周り	降雨等により変動	【A排水路出口】 Cs134:3.6(2015/3/19) Cs137:15(2015/3/19) 全β:32(2015/3/19) H3:10(2015/3/18)	公表済	・雨水	・降雨	A排水路	・排水路→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・清掃の実施 ・ゼオライト土壌・モール状吸着材の設置	実施中
23	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(4)対策実施後の状況観察中	1～4号機滞留水処理設備	RO濃縮水処理設備	・タンク、配管、浄化設備	屋外・建屋内	最大約1,000	Sr90:1.0E+3～1.0E+06程度(2015/1)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	A排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→地中→海	①排水路出口 ②漏えい検知	①不定期 毎日(H27.1.19以降) ②運用中	・機器スキッド受けパン ・系統分離堰、建屋外周堰 ・漏えい検知機、パトロール	運用中
24	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(4)対策実施後の状況観察中	1～4号機滞留水処理設備	高性能多核種除去設備	・タンク、配管、浄化設備	屋外・建屋内	最大約3,000	Sr90:ND(<1.6E-1) Cs134:ND(<1.5E-1) Cs137:ND(<1.8E-1)(2014.10)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	A排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→地中→海	①排水路出口 ②漏えい検知	①不定期 毎日(H27.1.19以降) ②運用中	・機器スキッド受けパン ・建屋外周堰 ・漏えい検知機、パトロール	運用中
25	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(4)対策実施後の状況観察中	1～4号機滞留水処理設備	増設多核種除去設備	・タンク、配管、浄化設備	屋外・建屋内	最大約3,000	Sr90:ND(<1.1E-1) Cs134:ND(<1.7E-1) Cs137:ND(<1.3E-1)(2014.9)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	A排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→地中→海	①排水路出口 ②漏えい検知	①不定期 毎日(H27.1.19以降) ②運用中	・機器スキッド受けパン ・系統分離堰、建屋外周堰 ・漏えい検知機、パトロール	運用中
26	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(4)対策実施後の状況観察中	1～4号機滞留水処理設備	多核種除去設備	・タンク、配管、浄化設備	屋外・建屋内	最大約4,000	Sr90:ND(<1.5E-1) Cs134:ND(<2.8E-1) Cs137:ND(<2.8E-1)(2013.4)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	A排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→地中→海	①排水路出口 ②漏えい検知	①不定期 毎日(H27.1.19以降) ②運用中	・機器スキッド受けパン ・系統分離堰、建屋外周堰 ・漏えい検知機、パトロール	運用中
27	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(4)対策実施後の状況観察中	5、6号機滞留水処理設備	RO装置(5・6号滞留水用)	・タンク、配管、RO	6号機北側	保有水量 最大約14	5・6号機貯留タンクと同様 Cs134(26)、Cs137(65)、 Co60(13) (2014/2/6)	公表済	・滞留水貯留タンクの汚染水	・損傷による系外漏えい	A排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・タンク同様の堰内に設置 ・RO装置コンテナ内に堰及び漏えい検知器設置 ・パトロール実施(4回/日)	運用中
28	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(4)対策実施後の状況観察中	その他震災後設置設備	サブドレン・地下水ドレン浄化・移送設備	・タンク、配管、浄化設備	屋外・建屋内	約4,000	【浄化後水】 Cs134:ND Cs137:ND 全β:ND～0.93 H3:360～670 H26.9～H26.11分析実施	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	A排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・機器スキッド受けパン ・系統分離堰、建屋外周堰 ・漏えい検知機、パトロール	運用中
29	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(5)現状では追加対策不要	既設設備	No.2ろ過水系設備	・タンク、配管	屋外・建屋内	ろ過水:約4800 原水:約1500	原水タンク Cs134:0.67(H27.3.26) Cs137:0.46(H27.3.26) 全β:0.80(H27.3.26) ろ過水タンクNo.2 Cs134:0.71(H27.3.26) Cs137:0.69(H27.3.26) 全β:0.80(H27.3.26)	今回公表	・無	・損傷等による系統外漏えい ・降雨	A排水路	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・パトロール	運用中
30	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	5・6号機滞留水貯蔵タンク	5・6号機貯留タンク(フランジタンク)	・5・6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約1万 (H27.4.16時点)	Cs134(26)、Cs137(65)、 Co60(13) (2014/2/6)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	A排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②排水路出口	①常時 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・タンク他は、堰内に設置 ・パトロール実施中(4回/日)	運用中
31	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(4)対策実施後の状況観察中	5・6号機滞留水貯蔵タンク	5・6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5・6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約0.5万 (H27.4.16時点)	Cs134(26)、Cs137(65)、 Co60(13) (2014/2/6)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	A排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②排水路出口	①常時 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・タンク他は、堰内に設置 ・パトロール実施中(4回/日)	運用中
32	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(1)調査が必要	排気筒ドレンサンピット	5/6号排気筒ドレンサンピット	・5/6号排気筒ドレンサンピット	5/6号排気筒付近	約6	未調査	-	・雨水浸入 ・地下水	・雨水浸入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	A排水路	・ピット→地表→排水路→海 ・ピット→地表→地中→海 ・ピット→地中→海	①排水路出口 ②SDビット	①不定期 毎日(H27.1.19以降) ②週3回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-

(1)調査が必要
(2)対策が必要
(3)対策実施中
(4)対策実施後の状況観察中
(5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析						[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況			
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	(1)水の状況			(2)流出経路			モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済／工事中		
							場所	量(m3)	放射線物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因					主な敷地外流出場所	流出経路(複数可)(敷地外へ)
33	B・C排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(1)調査が必要	タンク堰等	B・C排水路流域防油堤等	・屋外変圧器油貯蔵タンク防油堤 ・絶縁油貯蔵タンク防油堤 ・予備変圧器防油堤 ・所内共通変圧器防油堤	Dタンクエリア西側	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	B・C排水路	・堤内→地表→排水路→海 ・堤内→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
34	B・C排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(4)対策実施後の状況観察中	地面	地面(フェーシング実施箇所)	・1F構内35m盤 ・1-4号4m盤南側埋立エリア	1F構内35m盤	-	-	対象外	・雨水	・降雨	B・C排水路	・地表→排水路→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・除染・フェーシング	実施済
35	B・C排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(4)対策実施後の状況観察中	タンク堰等	タンク堰	・35M盤タンクエリアタンク堰	屋外(35m盤)	降雨量により変動	浄化処理前の堰内雨水の例 全β:1600 Cs134:ND(<5.4) Cs137:ND(<8.7) (2015/3/5) 浄化処理不要の堰内雨水の例 Cs134:ND(<0.7099) Cs137:0.891 Sr90:ND(<0.5) H3:ND(<101.9) (2015/3/25)	公表済	・貯蔵タンク・弁からの漏えい ・雨水	・大雨/タンクからの漏えいにより堰オーバーフロー ・堰からの漏えい	B・C排水路	・堰内→地表→排水路→海 ・堰内→地中→海	①堰内水位パトロール ②排水路出口	①毎日 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・堰のかさ上げ ・2重堰の設置	実施済
36	B・C排水路	雨水の汚染源となるリスク 廃棄物置き場	(2)対策が必要	水処理二次廃棄物保管場所	吸着塔一時保管施設(Sarry/Kurion)	・吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	・吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	降雨量により変動	(吸着塔内の水は構造上、採取困難)	対象外	・雨水	・屋根がなく、吸着塔から漏えいすると雨水とともに流出	B・C排水路	・設備→排水路→海 ・設備→地中→海	①床、排水溝(線量、スミヤ) ②排水路出口	①毎月 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・塔内水の淡水置換及び排水後に保管	運用中
37	B・C排水路	雨水の汚染源となるリスク 廃棄物置き場	(4)対策実施後の状況観察中	水処理二次廃棄物保管場所	吸着塔一時保管施設(HIC)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	0 (一部のボックスカルバート内に少量の水あり)	調査中 【No.172(AJ5)蓋外周部】 Cs134:1.9E+3 Cs137:6.8E+3 全β:3.0E+6 (2015/4/2)	公表済	・HICからの溢水	・HICから漏えいあっても、ボックスカルバート外へ漏えいしない構造 ・雨水は流入しにくい構造	B・C排水路	・設備→排水路→海 ・設備→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・HICから漏えいあっても、ボックスカルバート外へ漏えいしない構造	実施済
38	B・C排水路	雨水の汚染源となるリスク 排水路・川	(3)対策実施中	排水路	B・C排水路	・B・C排水路 ・枝排水路	35M盤タンクエリア	降雨等により変動	【B・C排水路出口】 Cs134:2.4(2015/3/19) Cs137:9.2(2015/3/19) 全β:32(2015/3/19) H3:ND(<8.2)(2015/3/18)	公表済	・雨水	・降雨	B・C排水路	・排水路→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・清掃の実施 ・暗渠化 ・港湾内への切り替え	実施中
39	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保水	(3)対策実施中	その他震災後設置設備	堰内雨水移送・処理設備	・回収タンク、配管、ポンプ ・淡水化処理RO膜装置(雨水用) ・モバイルRO膜装置(雨水用)	屋外(35m盤)	約5250	【浄化処理前の堰内雨水の例】 全β:1600 Cs134:ND(<5.4) Cs137:ND(<8.7) (2015/3/5) 【処理水タンク】 Cs134:ND(<5.0E-1) Cs137:ND(<7.6E-1) 全β:ND(<4.2E+0) (2015/3/30)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	B・C排水路	・装置→堰内→地表→排水路→海 ・装置→地中→海	①パトロール ②排水路出口	①毎日 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・漏えいしにくいポリエチレン管に変更	実施中
40	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保水	(4)対策実施後の状況観察中	1～4号機滞留水処理設備	蒸発濃縮装置	・タンク、配管、装置	屋外・建屋内	約300	【蒸発濃縮装置入口水】 Cs134:6.3E+3(H24.1.26) Cs137:1.1E+4(H24.1.26) 【蒸発濃縮装置出口水】 H3:3.5E+6(H23.12.20) 全β:8.9E+3(H23.12.20) 【蒸発濃縮装置濃廃水】 Cs134:1.7E+4(H23.12.20) Cs137:2.5E+4(H23.12.20) 全β:4.7E+8(H23.12.20)	公表済	・建屋地下の汚染水	・損傷等による系統外漏えい	B・C排水路	・装置→堰内→地表→排水路→海 ・装置→地中→海	①パトロール監視 ②ハウス内漏えい検知器 ③排水路出口	①毎日 ②常時 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	・ハウス堰設置	実施済
41	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保水	(4)対策実施後の状況観察中	1～4号機滞留水処理設備	第二モバイル型ストロンチウム除去装置	・配管、ユニット	屋外・建屋内	約5(×4ユニット)	Sr90:3.5E+7 (2015/3/16)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	B・C排水路	・装置→堰内→地表→排水路→海 ・装置→地中→海	排水路	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・装置:コンテナ内設置、漏えい検知器設置、パトロール	運用中



(1)調査が必要
  (2)対策が必要
  (3)対策実施中
  (4)対策実施後の状況観察中
  (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析						[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況			
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	量(m3)	放射性物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可) (敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中
42	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保有水	(4)対策実施後の状況観察中	1～4号機滞留水処理設備	淡水化装置(RO)	・タンク、RO	屋外・建屋内	約200 (装置容量)	【淡水化装置入口水】 Cs134:ND(H27.2.10) Cs137:1.8E+3(H27.2.10) H3:4.1E+5(H27.2.10) 【淡水化装置出口水】 H3:4.3E+5(H27.2.10) Sr90:2.7E+3(H27.2.10) 【淡水化装置濃縮水】 Cs134:7.3E+2(H27.2.10) Cs137:3.1E+3(H27.2.10) H3:4.5E+5(H27.2.10) Sr90:1.7E+5(H27.2.10)	公表済	・建屋地下の汚染水	・損傷等による系統外漏えい	B・C排水路	・装置→堰内→地表→排水路→海 ・装置→地中→海	①パトロール監視 ②ハウス内漏えい検知器 ③排水路出口	①毎日 ②常時 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	・ハウス堰設置	実施済
43	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保有水	(4)対策実施後の状況観察中	1～4号機滞留水処理設備	モバイル型ストロンチウム除去装置	・配管、ユニット	屋外・建屋内	約10(×2ユニット)	Sr90:1.1E+7 (2015/2/12)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	B・C排水路	・装置→堰内→地表→排水路→海 ・装置→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・装置:コンテナ内設置、漏えい検知器設置、パトロール	運用中
44	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保有水	(4)対策実施後の状況観察中	その他震災後設置設備	地下水BP設備	・タンク、配管、ポンプ	屋外・建屋内	最大約9,000	【揚水井】(2015/3/26,3/30採取) 全β:ND H3:4.9～970 【一時貯留タンク】 (2015/3/19採取、3/30排水) Cs134:ND(<0.44) Cs137:ND(<0.73) 全β:ND(<0.90) H3:96	公表済	・無	・損傷等による系統外漏えい	B・C排水路	・装置→堰内→地表→排水路→海 ・装置→地中→海	①系統内部水 ②排水路出口	①1回/週 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・パトロール	運用中
45	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(2)対策が必要	汚染水等貯留タンク	廃液供給タンク(角型タンク)	・廃液供給タンク	35m盤タンクエリア	約1200 (タンク容量)	【淡水化装置入口水】 Cs134:ND(H27.2.10) Cs137:1.8E+3(H27.2.10) H3:4.1E+5(H27.2.10)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①パトロール監視 ②排水路出口	①常時 ②不定期 毎日(H27.1.19以降)	・コンクリート堰の設置	実施済
46	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	屋外既設タンク	No.1ろ過水タンク(RO濃縮塩水/溶接タンク)	・No.1ろ過水タンク(RO濃縮塩水/溶接タンク)	屋外(35m盤)	約100(残水処理中)	【No.1ろ過水タンク】 Cs-134:2.3E+03 Cs-137:4.3E+03 全β:6.6E+07 (2013.11.19)	公表済	・無	・設備損傷による系統外漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位出口 ②パトロール監視 ③排水路	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)堰の設置 (b)残水処理	(a)実施済 (b)実施中
47	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	汚染水等貯留タンク	RO濃縮塩水貯留タンク(フランジタンク)	・RO濃縮塩水貯留タンク(フランジタンク)	35m盤タンクエリア	約3.5万 (H27.4.16時点)	【淡水化装置濃縮水】 Cs134:1.3E3(H26.12.9) Cs137:4.9E3(H26.12.9) H3:5.0E5(H26.12.9) 全β:2.1E7(H26.12.9)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)堰のかさ上げ・二重化 (b)溶接タンクへのリプレース (c)汚染水浄化 等	(a)実施済 (b)(c)実施中
48	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	処理水貯留タンク	ALPS処理水貯留タンク(フランジタンク)	・ALPS処理水貯留タンク(フランジタンク)	35m盤タンクエリア	約2.6万 (H27.4.16時点)	Sr90:ND(<1.5E-1) Cs134:ND(<2.8E-1) Cs137:ND(<2.8E-1)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)堰のかさ上げ・二重化 (b)溶接タンクへのリプレース 等	(a)実施済 (b)実施中
49	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	処理水貯留タンク	Sr処理水貯留タンク(フランジタンク)	・Sr処理水貯留タンク(フランジタンク)	35m盤タンクエリア	約7.2万 (H27.4.16時点)	Sr90:1.1E+7 (2015/2/12)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)堰のかさ上げ・二重化 (b)溶接タンクへのリプレース (c)汚染水浄化 等	(a)実施済 (b)(c)実施中
50	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	その他震災後設置タンク	4000tノッチタンク(角型タンク)	・4000tノッチタンク	35m盤タンクエリア	約370 (H27.4.20時点)	【3000tノッチタンク】 水抜き済 【1000tノッチタンク】 Cs134:ND(<13) Cs137:ND(<18) 全β:72000 (2014/6/2)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	・水抜き・タンクリプレース	実施中

(1)調査が必要 (2)対策が必要 (3)対策実施中 (4)対策実施後の状況観察中 (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析						[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況			
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	(1)水の状況			(2)流出経路			モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済／工事中		
							場所	量(m3)	放射性物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因					主な敷地外流出場所	流出経路(複数可)(敷地外へ)
51	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	淡水貯留タンク	淡水貯留タンク(角型タンク)	・淡水貯留タンク(角型タンク)	35m盤タンクエリア	約1600(H27.4.16時点)	【淡水化装置出口水】 H3:4.3E5(H27.2.10) Sr90:2.7E3(H27.2.10)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)コンクリート堰の設置 (b)溶接タンクへのリブレース	実施中
52	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	淡水貯留タンク	淡水貯留タンク(フランジタンク)	・淡水貯留タンク(フランジタンク)	35m盤タンクエリア	約1.1万(H27.4.16時点)	【淡水化装置出口水】 H3:4.3E5(H27.2.10) Sr90:2.7E3(H27.2.10)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)堰のかさ上げ・二重化 (b)溶接タンクへのリブレース等	(a)実施済 (b)実施中
53	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	廃棄物貯留タンク	廃棄物用タンク(濃縮廃液/横置きタンク)	・廃棄物用タンク(濃縮廃液/横置きタンク)	35m盤タンクエリア	約700(H27.4.16時点)	【蒸発濃縮装置濃縮水】 Cs134:1.7E+4(H23.12.20) Cs137:2.5E+4(H23.12.20) 全β:4.7E+5(H23.12.20)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	・溶接タンクへのリブレース等	実施中
54	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	淡水貯留タンク	淡水貯留タンク(横置きタンク)	・淡水貯留タンク(横置きタンク)	35m盤タンクエリア	約0.6万(H27.4.16時点)	【淡水化装置出口水】 H3:4.3E5(H27.2.10) Sr90:2.7E3(H27.2.10)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	・溶接タンクへのリブレース等	実施中
55	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	汚染水等貯留タンク	RO濃縮塩水貯留タンク(溶接タンク)	・RO濃縮塩水貯留タンク(溶接タンク)	35m盤タンクエリア	約2.9万(H27.4.16時点)	【淡水化装置濃縮水】 Cs134:1.3E3(H26.12.9) Cs137:4.9E3(H26.12.9) H3:5.0E5(H26.12.9) 全β:2.1E7(H26.12.9)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)堰のかさ上げ・二重化 (b)汚染水浄化等	(a)実施済 (b)実施中
56	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	処理水貯留タンク	Sr処理水貯留タンク(溶接タンク)	・Sr処理水貯留タンク(溶接タンク)	35m盤タンクエリア	約8.4万(H27.4.16時点)	Sr90:1.1E+7(2015/2/12)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)堰のかさ上げ・二重化 (b)汚染水浄化等	(a)実施済 (b)実施中
57	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	仮置きタンク	工所用仮置きタンク	・プラスチックタンク	構内全域	工事状況により変動	未調査	-	・無	・タンクの損傷・劣化・転倒	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・管理ルールを設けて管理	実施中
58	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	処理水貯留タンク	ALPS処理水貯留タンク(溶接タンク)	・ALPS処理水貯留タンク(溶接タンク)	35m盤タンクエリア	約36.3万(H27.4.16時点)	Sr90:ND(<1.5E-1) Cs134:ND(<2.8E-1) Cs137:ND(<2.8E-1)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	・堰のかさ上げ・二重化等	実施済
59	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	廃棄物貯留タンク	廃棄物用タンク(濃縮廃液/溶接タンク)	・廃棄物用タンク(濃縮廃液/溶接タンク)	35m盤タンクエリア	約8500(H27.4.16時点)	【蒸発濃縮装置濃縮水】 Cs134:1.7E+4(H23.12.20) Cs137:2.5E+4(H23.12.20) 全β:4.7E+5(H23.12.20)	公表済	・無	・タンクからの漏えい	B・C排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視 ③排水路出口	①常時 ②毎日 ③不定期 毎日(H27.1.19以降)	堰のかさ上げ・二重化等	実施済
60	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク ビッド類	(5)現状では追加対策不要	その他井戸等	電源ケーブルビッド(調査済、水なし)	・ハンドホール ・南側66kV開閉所ケーブルビッド ・予備ケーブルビッド ・オーブントレンチ	35m盤タンクエリア等	0	-	対象外	・雨水	・降雨	B・C排水路	・ビッド→地表→排水路→海 ・ビッド→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	-	-
61	その他排水路等	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(1)調査が必要	建屋屋根	物揚場周辺建屋	・旧水処理建屋 ・保健安全センター別館 ・キャスク保管建屋	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	物揚場排水路	・屋上→雨樋→排水路→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・排水路の汚染源を順次調査中	-



(1)調査が必要 (2)対策が必要 (3)対策実施中 (4)対策実施後の状況観察中 (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析						[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況			
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	(1)水の状況 量(m3)	放射線物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可) (敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中
62	その他排水路等	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(3)対策実施中	タンク堰等	処理水パフファタンク堰内溜まり水	処理水パフファタンク堰	35m盤	約56.7 (堰内止水容量)	Cs134:6.1 Cs137:2.3 全β:18 (H27.1.27採取データ)	今回公表	・雨水 ・処理水パフファタンクからの漏えい	・大雨/タンクからの漏えいにより堰からオーバーフロー	物揚場排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→堰内→地表→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	・タンク水をRO処理水から雨水処理水に入れ替え(実施済) ・堰内溜まり水をパフファタンクへ回収する設備を設置(実施済) ・堰内塗装(実施済) ・堰への屋根設置(工事中)	一部工事中
63	その他排水路等	雨水の汚染源となるリスク 廃棄物置き場	(1)調査が必要	各種廃棄物置き場	瓦礫類・伐採木一時保管エリア (ガレキ・伐採木の表面線量の応じて保管)	・仮設保管設備 ・瓦礫類一時保管エリア(シート養生) ・瓦礫類一時保管エリア(屋外集積) ・瓦礫類一時保管エリア(容器収納) ・伐採木一時保管エリア(屋外集積) ・伐採木一時保管槽	敷地北側	降雨量により変動	対象外	対象外	・雨水	・降雨	北護岸エリア	・設備→地表→側溝→海 ・設備→地表→川→海 ・設備→地中→海	陳場沢川	不定期	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
64	その他排水路等	雨水の汚染源となるリスク 廃棄物置き場	(4)対策実施後の状況観察中	各種廃棄物置き場	覆土式一時保管施設	・覆土式一時保管施設	敷地北側	降雨量により変動	対象外	対象外	・雨水	・降雨	北護岸エリア	・設備→地表→側溝→海 ・設備→地中→海	施設下流側の地下水	1回/月	・瓦礫類の上部/下部に遮水シート設置	実施済
65	その他排水路等	雨水の汚染源となるリスク 排水路・川	(1)調査が必要	排水溝等	敷地境界周辺排水溝等	【北護岸エリア】 ・海岸沿い海側へ2箇所ヒューム管による流出箇所確認 ・フェンス際1箇所流出部確認(海側の出口は確認できず) ・法肩部2箇所海側への流出部確認(海側の出口は確認できず) <陳場沢川河口付近> ・海側へ1箇所ヒューム管(砂利に埋没)による流出箇所確認 ・道路側溝から海側へ1箇所流出確認 【敷地境界陸側エリア】 ・敷地南側:11箇所中3箇所構内から流出可能性あり、8箇所は道路排水を確認 ・敷地西側:1箇所池からの流れ方向を確認 ・敷地北側:8箇所ヒューム管流出を確認 【南護岸エリア】 ・プロセス建屋北東側溝流出を確認 ・斜面沿いの小段排水側溝及びヒューム管 ・IBC排水路流出を確認	敷地北側護岸 発電所敷地境界陸側 敷地南側護岸	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	北護岸エリア 陸側敷地境界エリア 南護岸エリア	・排水溝→海 ・排水溝→陸側敷地外	-	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-	
66	その他排水路等	雨水の汚染源となるリスク 排水路・川	(3)対策実施中	排水路	物揚場排水路	・物揚場排水路 ・枝排水路	物揚場	降雨量により変動	Cs134:8.7(2015/3/19) Cs137:34(2015/3/19) 全β:55(2015/3/19) H3:16(2015/3/18)	公表済	・雨水	・降雨	物揚場排水路	・排水路→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)清掃の実施 (b)ゼオライト土壌・モルタル状吸着材の設置	工事中
67	その他排水路等	雨水の汚染源となるリスク 排水路・川	(5)現状では追加対策不要	川	陳場沢川	・陳場沢川	土捨場周辺	降雨量により変動	【河口付近】 Cs134:<0.80 Cs137:<0.85 全β:2.9 H3:<7.7 (2015/2/19)	公表済	・雨水	・降雨	陳場沢川	・陳場沢川→海	-	-	-	-
68	その他排水路等	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保有水	(1)調査が必要	既設設備	5,6号機復水器・既設海水系設備	・5,6号復水器 ・5,6号循環水系 ・5,6号機RHRS系 ・5,6号機ASW系 ・5,6号機DGSW系 ・6号機MG-SET SW系	5号タービン建屋 6号タービン建屋	未調査	未調査	-	・無	腐食等により海水系統内へ汚染の浸入	5・6号機放水路	・設備→放水路→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
69	その他排水路等	汚染源となるたまり水が存在するリスク その他	(1)調査が必要	その他井戸等	沼	・沼	5・6号開閉所の北西方向山林の中	不明	未調査	-	・雨水	・降雨	陳場沢川	・沼→陳場沢川→海	陳場沢川	不定期	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
70	その他排水路等	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(3)対策実施中	原子炉注水タンク	高台炉注パフファタンク	・高台炉注パフファタンク(フランジタンク)	35m盤事務本館脇	約1000 (タンク容量)	【淡水化装置出口水】 H3:4.3E5(H27.2.10) Sr90:2.7E3(H27.2.10)	公表済	・無	・設備損傷による系統外漏えい ・フランジ部の劣化による漏えい	物揚場排水路	・タンク→堰内→地表→排水路→海 ・タンク→堰内→地表→地中→海	排水路出口	不定期 毎日(H27.1.19以降)	(a)堰 (b)溶接型タンクへのリプレイス	(a)実施済 (b)実施中

(1)調査が必要 (2)対策が必要 (3)対策実施中 (4)対策実施後の状況観察中 (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析						[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況				
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	量(m3)	放射性物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可)(敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中	
71	その他排水路等	汚染源となるたまり水が存在するリスク	ビッド類	(1)調査が必要	逆洗弁ピット・吐出弁ピット	5、6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット(水質未調査)	5号機逆洗弁ピット 6号機逆洗弁ピット	5、6号タービン建屋海側	未調査	未調査	-	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	5・6号機放水路	・ピット→放水路→海 ・ピット→地中→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
72	その他排水路等	汚染源となるたまり水が存在するリスク	ビッド類	(2)対策が必要	逆洗弁ピット・吐出弁ピット	5、6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット(水質調査済)	・5号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット ・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	5、6号機スクリーン近傍別紙(3-1.3-23)	(5号機吐出弁ピット)約550 (6号機吐出弁ピット)約850	【5号機吐出弁ピット】 Cs134:100 Cs137:160 (2012/2/6) 【6号機吐出弁ピット】 Cs134:110 Cs137:140 (2012/2/6)	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	5・6号機放水路	・ピット→地中→海 ・ピット→地中→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・最も高濃度の吐出弁ピット(2号/3号)から対策を実施	-
73	その他排水路等	汚染源となるたまり水が存在するリスク	ビッド類	(5)現状では追加対策不要	放水路	5号機放水路(冷却用の海水通路として使用中)	・5号機放水路(冷却用の海水通路として使用中)	5/6号機タービン建屋東側	海水が流動	【5号機放水口北側】 Cs134:ND(0.67)(H27.3.16) Cs137:ND(0.45)(H27.3.16) 全β:12(H27.3.16) H3:ND(1.6)(H27.3.12)	公表済	・雨水 ・5/6号海水系設備からの流入	・雨水、または海水系設備内の海水が浸入	5・6号機放水路	・放水路→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・設備の健全性を確認	運用中
74	その他排水路等	汚染源となるたまり水が存在するリスク	ビッド類	(5)現状では追加対策不要	放水路	6号機放水路(冷却用の海水通路として使用中)	・6号機放水路(冷却用の海水通路として使用中)	6号機タービン建屋東側	海水が流動	【5号機放水口北側】 Cs134:ND(0.67)(H27.3.16) Cs137:ND(0.45)(H27.3.16) 全β:12(H27.3.16) H3:ND(1.6)(H27.3.12)	公表済	・雨水 ・5/6号海水系設備からの流入	・雨水、または海水系設備内の海水が浸入	5・6号機放水路	・放水路→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・設備の健全性を確認	運用中
75	地下水(開渠内)	雨水の汚染源となるリスク	汚染土壌	(2)対策が必要	汚染土壌	汚染土壌(H4エリア周辺以外)	・1～4号機タービン建屋東側近傍の土壌 ・過去に漏えいし、回収できなかった土壌(H4エリア周辺以外)	1～4号機タービンビル東側	-	-	対象外	・雨水	・降雨	地下水(1～4開渠内)	・地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良 ・海側遮水壁の閉合(漏らさない)	(a)実施済 (b)工事中
76	地下水(開渠内)	雨水の汚染源となるリスク	汚染土壌	(3)対策実施中	汚染土壌	汚染土壌(過去にタンク漏えいし、回収できなかった土壌)(H4エリア周辺)	・汚染土壌(過去にタンク漏えいし、回収できなかった土壌)(H4エリア周辺)	タンクエリア	-	-	対象外	・雨水	・降雨	地下水(1～4開渠内)	・地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)アパタイト設置による流出防止 (b)タンクリプレースに合わせ土壌回収	(a)実施済 (b)工事中
77	地下水(開渠内)	雨水の汚染源となるリスク	その他構築物等	(1)調査が必要	建屋屋根	1～4号機T/B等屋根(水質未調査)	・3.4号機T/B ・1.2新S/B ・3.4新S/B ・1～4号機出入管理所 ・スチームドレン処理建屋(1.2側) ・スチームドレン処理建屋(3.4側)等	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	地下水(1～4開渠内)	・屋上→雨樋→放水路→地中→海 ・屋上→雨樋→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・放水路の汚染源を順次調査中	-
78	地下水(開渠内)	雨水の汚染源となるリスク	その他構築物等	(1)調査が必要	タンク堰等	1～4号機周辺海側防油堤等	・1～4号薬品タンク(硫酸・苛性)フェンス ・No.1.2軽油タンクフェンス	1～4号機海側	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	地下水(1～4開渠内)	・堤内→側溝→放水路→地中→海 ・堤内→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
79	地下水(開渠内)	雨水の汚染源となるリスク	その他構築物等	(2)対策が必要	建屋屋根	1～4号機T/B屋根(水質調査済)	・1号機T/B ・2号機T/B	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs134:250～740 Cs137:980～2700 全β:1400～6900 (採水H26.11.26)	公表済	・雨水	・降雨	地下水(1～4開渠内)	・屋上→雨樋→放水路→地中→海 ・屋上→雨樋→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・最も高濃度の屋根(2号大物搬入口屋上)から順次対策中	-
80	地下水(開渠内)	雨水の汚染源となるリスク	その他構築物等	(3)対策実施中	地面	地面(フェーシング予定箇所)	・地面(フェーシング予定箇所)	1F構内10m盤	-	-	対象外	・雨水	・降雨	地下水(1～4開渠内)	・地表→排水路→海 ・地表→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・除染・フェーシング	実施中
81	地下水(開渠内)	雨水の汚染源となるリスク	その他構築物等	(3)対策実施中	瓦礫	震災当初の瓦礫(地表)	・震災当初の瓦礫(地表)	10m盤	-	-	対象外	・雨水	・降雨	地下水(1～4開渠内)	・地表→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・瓦礫撤去・フェーシング	実施中
82	地下水(開渠内)	作業により発生する水	作業	(3)対策実施中	作業	1～4号機周辺エリアにおける作業に伴う散水	・2号機原子炉建屋周辺ヤード整備に伴う建屋解体時のダスト飛散抑制を目的とした散水 ・1号機原子炉建屋ガレキ撤去時の飛散抑制対策を目的とした散水 ・海水配管トレンチ凍結プラントのクーリングタワー排水	2号機原子炉建屋西側ヤード	約3m3/h	・敷地外から引いた水(ろ過水)を利用	対象外	・無	・散水	地下水(1～4開渠内)	・地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・散水前に飛散防止剤を塗布し流出抑制(2号建屋解体、1号ガレキ撤去)	実施中
83	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	設備内保有水	(1)調査が必要	既設設備	1～4号機屋内既設設備	・1～4号機各系統・設備(配管・タンク・ポンプ等)	建屋内	未調査	未調査	-	・無	・損傷等による系統外漏れ	地下水(1～4開渠内)	・設備→建屋地下→地下水→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-

(1)調査が必要
(2)対策が必要
(3)対策実施中
(4)対策実施後の状況観察中
(5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析				[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況					
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	量(m3)	放射線物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可) (敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中
84	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保水	(1)調査が必要	既設設備	1～4号機周辺屋外既設設備	・1～4号HVAC系設備 ・1～4号OG系設備 ・1～4号AC系設備 ・1～4号SGTS系設備 ・1～4号FP系設備 等	屋外	未調査 (埋設部は不可)	未調査	-	・無	-	地下水(1～4開渠内)	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
85	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保水	(1)調査が必要	既設設備	1～4号機復水器・既設海水系設備	・1～4号機復水器 ・1～4号機循環水系 ・1～4号機RHRS系 ・1～4号機ASW系 ・1～4号機DGSW系	1～4号機タービン建屋	未調査	未調査 (海水系配管内)	-	・海水系統と接する機器内の汚染	腐食等により海水系統内へ汚染の浸入	地下水(1～4開渠内)	・設備→海水系配管→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
86	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク 建屋	(1)調査が必要	建屋滞留水	1～3号機ホールドアップ建屋	・1～3号機ホールドアップ建屋	10M盤	未調査	未調査	-	・地下水等	・建屋水位と地下水水位の逆転	地下水(1～4開渠内)	・建屋→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
87	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク 建屋	(3)対策実施中	建屋滞留水	1～4号機建屋滞留水 (連通していない箇所も含む)	・1～4号機建屋滞留水 (連通していない箇所も含む)	1～4号機建屋内	約62500 (H27.2.19時点)	【1号機T/B地下溜まり水】 Cs134:2.8E+5, Cs137:1.0E+6(2015/3/17) 【2号機T/B地下溜まり水】 Cs134:5.8E+6, Cs137:2.2E+7(2015/3/17) 【3号機T/B地下溜まり水】 Cs134:6.8E+6, Cs137:2.7E+7, Co60:1.2E+4(2015/2/26) 【4号機T/B地下溜まり水】 Cs134:1.4E+5, Cs137:48E+5, (2015/2/17)	公表済	・炉心冷却水、雨水、地下水等	・建屋水位と地下水水位の逆転	地下水(1～4開渠内)	・建屋→地中→海	①建屋水位 ②タービン建屋東側地下水 ③SDビット	①常時 ②週1回 ③週3回	(a)建屋水位管理 (b)地下水流入抑制策及びこれによる地下水水位低下に併せた滞留水の除去	(a)運用中 (b)実施中
88	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(1)調査が必要	屋外既設タンク	防火水槽/浄化槽/中継槽/貯水槽	・防火水槽 ・浄化槽/中継槽 ・貯水槽	構内各所	未調査	未調査	-	・雨水 (地下タイプは雨水+地下水)	・雨水 ・設備損傷による系統外漏えい	地下水(1～4開渠内)	・設備→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
89	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	屋外既設タンク	1号CSTタンク (溶接タンク)	・1号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約1720	Cs134:6.4E+5 Cs137:2.5E+6 全β:3.3E+6 (採水H27.3.23)	今回公表	・無	・設備損傷による系統外漏えい	地下水(1～4開渠内)	・設備→地表→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・堰	実施済
90	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	屋外既設タンク	2号CSTタンク (溶接タンク)	・2号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約2220	Cs134:1.7E+4 Cs137:5.7E+4 全β:3.3E+6 (採水H27.3.23)	今回公表	・無	・設備損傷による系統外漏えい	地下水(1～4開渠内)	・設備→地表→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・堰	実施済
91	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	屋外既設タンク	3号CSTタンク (溶接タンク)	・3号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約2448 (タンク容量)	【淡水化装置出口水】 H3:4.3E5(H27.2.10) Sr90:2.7E3(H27.2.10)	公表済	・無	・設備損傷による系統外漏えい	地下水(1～4開渠内)	・設備→地表→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・堰	実施済
92	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	その他震災後設置タンク	地下貯水槽	・地下貯水槽	35m盤タンクエリア	水抜き実施	-	対象外	・雨水	・地下貯水槽からの漏えい	地下水(1～4開渠内)	・設備→地中→海	①地下貯水槽(ドレン孔・検知孔) ②周辺ボーリング孔・海側観測孔	1回/日～1回/週 (頻度見直し検討中)	・漏えいを確認したため水抜き	実施済
93	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	1-4号建屋接続 未調査トレンチ	・2号機軽油配管トレンチ ・重油配管トレンチ(3,4号機東側) ・1号機ホットシャワードレンタンク連絡ダクト ・2～3号非常用電源ケーブル連絡ダクト ・3号機オフガス配管ダクト(北側) ・4号機オフガス配管ダクト	1～4号機周辺 別紙(1-19,1-27,1-10,1-16,1-25,1-35)	未調査 (高線量又は支障物により内部状況が確認出来ない)	未調査	-	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1～4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良	(a)工事中 (b)実施済
94	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	1-4号建屋接続 調査済トレンチ (水有り)	・1号機海水配管トレンチ ・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト(2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト ・4号機薬品タンク連絡ダクト 等	1～4号機周辺 別紙(1-31-4,1-6,1-8,1-29,1-30,1-36,1-1,1-2,1-5,1-9,1-26,1-33,1-37,1-40)	約2～2400	Cs134:2.4E1～1.5E3 Cs137:8.3E1～5.1E3 全β:1.2E2～1.1E4 H3:ND～7.9E3 (採取期間:H26.12)	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1～4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①トレンチ内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①年1回 ②週1回	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良	(a)工事中 (b)実施済



(1)調査が必要 (2)対策が必要 (3)対策実施中 (4)対策実施後の状況観察中 (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析							[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況		
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	量(m3)	放射線物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可)(敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中
95	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機山側別紙(1-12)	約1600	Cs134:6.1E2 Cs137:1.9E3 全β:2.2E3 H3:2.2E2(H26.12)	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①トレンチ内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①年1回 ②週1回	(a)汚染水の除去 (b)コンクリート充填 (c)海側遮水壁の設置 (d)水ガラスによる地盤改良	(a)(b)一部実施済 (c)工事中 (d)実施済
96	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	2号機海水配管トレンチ	2号機海水配管トレンチ	2号機タービン建屋海側別紙(1-41)	約1860(4/21時点)	【立坑C】 Cs134:1.0E8(H27.2.5) Cs137:3.5E8(H27.2.5) 全β:2.2E8(H27.2.5) H3:1.9E6(H27.2.5)	公表済	・建屋滞留水との連通	・津波による建屋滞留水増加により溢水 ・トレンチ壁の劣化等により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①トレンチ内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①不定期(適宜) ②週1回	(a)汚染水の除去 (b)コンクリート充填 (c)海側遮水壁の設置 (d)水ガラスによる地盤改良	(a)~(c)工事中 (d)実施済
97	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	3号機海水配管トレンチ	3号機海水配管トレンチ	3号機タービン建屋海側別紙(1-42)	約2660(4/21時点)	【立坑D】 Cs134:5.6E5(H27.2.27) Cs137:1.9E6(〃) 全β:4.2E6(〃) H3:1.5E5(〃)	公表済	・雨水浸入 ・建屋滞留水との連通	・津波による建屋滞留水増加により溢水 ・トレンチ壁の劣化等により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①トレンチ内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①不定期(適宜) ②週1回	(a)汚染水の除去 (b)コンクリート充填 (c)海側遮水壁の設置 (d)水ガラスによる地盤改良	(a)~(c)工事中 (d)実施済
98	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側別紙(1-21)	約750	Cs134:1.6E2 Cs137:5.3E2 全β:8.1E2 H3:1.3E2(H26.12)	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①トレンチ内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①年1回 ②週1回	(a)建屋への流入箇所の充填 (b)コンクリート充填 (c)水ガラスによる地盤改良	(a)一部実施済 (b)工事中 (c)実施済
99	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	2・3号機電源ケーブルトレンチ	2号機電源ケーブルトレンチ 3号機電源ケーブルトレンチ	2号機スクリーン近傍別紙(1-17) 3号機スクリーン近傍別紙(1-28)	未調査(高線量によりアクセス出来ない)	未調査	-	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)汚染水の除去 (b)コンクリート充填 (c)海側遮水壁の設置 (d)水ガラスによる地盤改良	(a)(b)一部実施済 (c)工事中 (d)実施済
100	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	4号機電源ケーブルトレンチ	4号機電源ケーブルトレンチ	4号機スクリーン近傍別紙(1-38)	未調査(高線量によりアクセス出来ない)	未調査	-	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)汚染水の除去 (b)コンクリート充填 (c)海側遮水壁の設置 (d)水ガラスによる地盤改良	(a)(b)一部実施済 (c)工事中 (d)実施済
101	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	4号機海水配管トレンチ	4号機海水配管トレンチ	4号機タービン建屋海側別紙(1-39)	約370(4/21時点)	Cs134:6.4E4 Cs137:2.1E5 全β:2.9E5 H3:3.3E3(H26.12)	公表済	・雨水浸入 ・建屋滞留水との連通	・津波による建屋滞留水増加により溢水 ・トレンチ壁の劣化等により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①トレンチ内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①不定期(適宜) ②週1回	(a)汚染水の除去 (b)コンクリート充填 (c)海側遮水壁の設置 (d)水ガラスによる地盤改良	(a)~(c)工事中 (d)実施済
102	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋接続トレンチ	廃棄物処理建屋間連絡ダクト	廃棄物処理建屋間連絡ダクト	3号機廃棄物処理建屋西側別紙(1-33)	約420	Cs134:2.7E1 Cs137:9.4E1 全β:1.2E2 H3:3.1E2(H26.12)	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①トレンチ内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①年1回 ②週1回	(a)建屋への流入箇所の充填 (b)コンクリート充填 (c)水ガラスによる地盤改良	(a)一部実施済 (b)工事中 (c)実施済
103	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋未接続トレンチ等	1-4号建屋未接続 調査済トレンチ(水有り)	2号機変圧器防炎用トレンチ 消火配管トレンチ(3号機東側) 1号機主変圧器ケーブルダクト 1号機廃液サージタンク連絡ダクト 1号機オフガス配管ダクト 等	1-4号機周辺別紙(2-7,2-8,2-10,2-11,2-12,2-14,2-15,2-23,2-29,2-36,2-43,2-53)	約1-800	Cs134:1.9E1~6.1E2 Cs137:5.0E1~1.8E3 全β:6.8E1~2.6E3 H3:ND~1.7E2(採取期間:H24.1~H27.2)	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①トレンチ内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①年1回 ②週1回	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良	(a)工事中 (b)実施済
104	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(3)対策実施中	1-4号建屋未接続トレンチ等	1-4号建屋未接続 未調査トレンチ	2号機オフガス配管ダクト 消火配管トレンチ(2~3号機T/B間) 3号機変圧器防炎用トレンチ 4号機変圧器防炎用トレンチ No.4.5 軽油配管トレンチ 等	1-4号機周辺別紙(2-9,2-16,2-20,2-21,2-22,2-24,2-30,2-31,2-32,2-34,2-35,2-42,2-44,2-45,2-47,2-48,2-49,2-50)	未調査(高線量又は支障物により内部状況が確認出来ない)	未調査	-	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良	(a)工事中 (b)実施済
105	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(4)対策実施後の状況観察中	1-4号建屋接続トレンチ	共用プール連絡ダクト(高濃度汚染水確認範囲)	共用プール連絡ダクト(高濃度汚染水確認範囲)	プロセス主建屋山側別紙(1-34)	0(充填済)	対策(充填)済	対象外	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①タービン建屋東側地下水 ②SDピット	①週1回 ②週3回	・汚染水の除去 ・コンクリート充填	実施済

(1)調査が必要
(2)対策が必要
(3)対策実施中
(4)対策実施後の状況観察中
(5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析					[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況				
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	量(m3)	放射能物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可)(敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中
106	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(4)対策実施後の状況観察中	1-4号建屋接続トレンチ	HTI連絡ダクト	HTI連絡ダクト	プロセス主建屋山側別紙(1-43)	0(充填済)	対策(充填)済	対象外	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	①タービン建屋東側地下水 ②SDピット	①週1回 ②週3回	・汚染水の除去 ・コンクリート充填	実施済
107	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(5)現状では追加対策不要	1-4号建屋接続トレンチ	1-4号建屋接続 調査済トレンチ(水無し)	・2号機放射性流体用配管ダクト ・3号機放射性流体用配管ダクト ・1号機共通配管ダクト(北側) ・2号機共通配管ダクト 等	1-4号機タービン建屋海側別紙(1-7,1-13,1-,14,1-18,1-20,1-22,1-23,1-31,1-38)	0	-	対象外	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	-	-
108	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(5)現状では追加対策不要	1-4号建屋未接続トレンチ等	1-4号建屋未接続 調査済トレンチ(水無し)	・No.1軽油配管トレンチ ・1~2号機ケーブルダクト ・1号機ボイラー室電気室連ラックトレンチ ・1~4号機発電機注入用窒素ガスポンベ室連絡トレンチ ・1~4号機共用所内ボイラートレンチ等	1-4号機周辺別紙(2-1,2-2,2-3,2-4,2-5,2-6,2-13,2-17,2-18,2-19,2-25,2-26,2-27,2-28,2-33,2-37,2-38,2-39,2-40,2-41,2-46,2-51,2-52)	0	-	対象外	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	-	-
109	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(1)調査が必要	SDピット(1~4号稼働予定ピット除く)	その他1~4号機サブドレン(ディープウェル含む)(未復旧ピット)(未調査)	・1号機~4号機サブドレン ・1号機~4号機ディープウェル ・変圧器防災配管ピット ・EB用ケーブルピット	1~4号機周辺別紙(SD) ※「未復旧」	約15/ピット	未調査	-	・地下水 ・雨水	・ピット内から周辺地下水への流出 ・豪雨時等の地下水水位上昇による溢水	地下水(1~4開渠内)	・ピット→地中→海 ・ピット→地表→排水路→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良	(a)工事中 (b)実施済
110	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(2)対策が必要	SDピット(1~4号稼働予定ピット除く)	1~4号機サブドレンピットNo.16(未復旧ピット)(水質調査済)	・サブドレンピットNo.16	1~4号機周辺別紙(SD) ※「未復旧」	約15/ピット	No.16 Cs134:8.5E5 Cs137:2.9E6 全β:3.2E6 H-3:8.4E4 (H26.10.29)	公表済	・地下水 ・雨水	・ピット内から周辺地下水への流出 ・豪雨時等の地下水水位上昇による溢水	地下水(1~4開渠内)	・ピット→地中→海 ・ピット→地表→排水路→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良 (c)隣接サブドレンピットへの流出防止(#17ピットのコンクリート充填)	(a)工事中 (b)(c)実施済
111	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(2)対策が必要	SDピット(1~4号稼働予定ピット除く)	その他1~4号機サブドレン(ディープウェル含む)(未復旧ピット)(水質調査済)	・1号機~4号機サブドレン	1~4号機周辺別紙(SD) ※「未復旧」	約15/ピット	No.47,48 Cs134:ND~3.9E1 Cs137:4.8E1~9.6E1 全β:7.9E1~2.8E2 H-3:ND (H26.11.10)	公表済	・地下水 ・雨水	・ピット内から周辺地下水への流出 ・豪雨時等の地下水水位上昇による溢水	地下水(1~4開渠内)	・ピット→地中→海 ・ピット→地表→排水路→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良	(a)工事中 (b)実施済
112	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(2)対策が必要	逆洗弁ピット・吐出弁ピット	1~4号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット(水質調査済)	・1号機逆洗弁ピット ・2号機逆洗弁ピット ・3号機逆洗弁ピット ・4号機逆洗弁ピット ・1号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット ・4号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	1~4号タービン建屋海側別紙(追加5,追加6,追加7,追加8,1-11,1-32)	(1号機逆洗弁ピット)約500	(1号機逆洗弁ピット) 【ピット①】(H27.1.15) Cs134:1.1E4, Cs137:4.2E4 全β:5.3E4, H3:6.9E2 【ピット②】(27.1.15) Cs134:1.1E4, Cs137:4.3E4 全β:5.2E4, H3:5.8E2 【ピット③】(H27.1.15) Cs134:1.2E4, Cs137:4.4E4 全β:5.3E4, H3:7.0E2 【ピット④】(H27.1.15) Cs134:1.2E4, Cs137:4.4E4 全β:5.4E4, H3:6.0E2	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・ピット→放水路→地中→海 ・ピット→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良	(a)工事中 (b)実施済
113	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(3)対策実施中	放水路	1号機放水路(出口を閉塞済)	・1号機放水路(出口を閉塞済)	1~4号タービン建屋海側別紙(追加1)	約3800	【立坑水上流側】 Cs134:1.7E4(H27.3.30) Cs137:5.9E4(H27.3.30) 全β:7.8E4(H27.3.30) H3:4.8E2(H27.3.30)	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・放水路壁劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・放水路→地中→海	①放水路内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①週2回(10 <sup>-4</sup> Bq/Lに低下するまで) ②週1回	(a)たまり水の浄化:吸着材の設置(暫定対策) (b)放水口へのゼオライト土壌設置 (c)浄化装置による浄化	(a)設置済 (b)工事中 (c)計画中
114	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(3)対策実施中	放水路	2号機放水路(出口を閉塞済)	・2号機放水路(出口を閉塞済)	2~4号機タービン建屋海側別紙(追加2)	約3000	Cs134:2.0E2(H26.2.12) Cs137:7.4E2( " ) 全β:1.1E3( " ) H3:2.8E2( " )	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・放水路→地中→海	①放水路内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①月1回 ②週1回	(a)たまり水の浄化:吸着材の設置(暫定対策) (b)放水口へのゼオライト土壌設置 (c)浄化装置による浄化	(a)設置済 (b)工事中 (c)計画中
115	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(3)対策実施中	放水路	3号機放水路(出口を閉塞済)	・3号機放水路(出口を閉塞済)	3~4号機タービン建屋海側別紙(追加3)	約600	Cs134:6.9E2(H26.2.12) Cs137:2.4E3( " ) 全β:3.1E3( " ) H3:2.2E3( " )	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・放水路→地中→海	①放水路内たまり水 ②タービン建屋東側地下水	①月1回 ②週1回	(a)たまり水の浄化:吸着材の設置(暫定対策) (b)放水口へのゼオライト土壌設置 (c)浄化装置による浄化	(a)設置済 (b)工事中 (c)計画中

(1)調査が必要 (2)対策が必要 (3)対策実施中 (4)対策実施後の状況観察中 (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析						[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況			
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	量(m3)	放射線物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可)(敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中
116	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	ビッド類	(4)対策実施後の状況観察中	吐出弁ビッド	2号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ビッド	2号機スクリーン近傍別紙(1-15)	対策(充填)済	対策(充填)済	対象外	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ビッド劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・ビッド→地表→海 ・ビッド→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・汚染水の除去 ・コンクリート充填	実施済
117	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	ビッド類	(4)対策実施後の状況観察中	吐出弁ビッド	3号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ビッド	3号機スクリーン近傍別紙(1-24)	対策(充填)済	対策(充填)済	対象外	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ビッド劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・ビッド→地表→海 ・ビッド→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	・汚染水の除去 ・コンクリート充填	実施済
118	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	ビッド類	(5)現状では追加対策不要	放水路	4号機放水路(出口を閉塞済)	4号機タービン建屋海側別紙(追加4)	0	-	対象外	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ビッド劣化・損傷により地中に漏出	地下水(1~4開渠内)	・放水路→地中→海	タービン建屋東側地下水	週1回	-	-
119	地下水(港湾内)	雨水の汚染源となるリスク	その他構築物等	(1)調査が必要	建屋屋根	その他建屋(K排水路流域以外)	その他建屋	降雨量により変動	未調査	-	・雨水	・降雨	地下水(港湾内)	・屋上→雨樋→地表→地中→海 ・屋上→雨樋→地表→排水路→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
120	地下水(港湾内)	作業により発生する水	作業	(5)現状では追加対策不要	作業	5-6号機周辺エリアにおける作業に伴う散水	5、6号機エリア等	約5m3/h(1回)	・敷地外から引いた水(原水)を利用	対象外	・無	・放水	地下水(港湾内)	・地中→海	-	-	・高線量、高汚染エリアでの訓練はしない	運用済
121	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	設備内保有水	(1)調査が必要	既設設備	5、6号機周辺屋外既設設備	屋外	未調査(埋設部は不可)	未調査	-	・無	・損傷等による系統外漏えい	地下水(港湾内)	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地中→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
122	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	設備内保有水	(5)現状では追加対策不要	既設設備	5、6号機屋内既設設備	5/6号機建屋内等	主な系統・設備のタンク保有水(H27.4.7現在) 5号機RCW・TCW共:各約85 6号機RCW・TCW共:各約200 5号機RWタンク:約1,100m3 6号機RWタンク:約1,200m3	設備による	対象外	・系統水等	・建屋への流出の可能性はあるが、建屋が健全で有り、海洋流出はない	地下水(港湾内)	・設備→建屋→地中→海	①建屋内水位 ②SDビッド	①毎日 ②週1回	-	-
123	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	建屋	(1)調査が必要	建屋滞留水	保健安全センター別館	10m盤汐見坂下南側建物	約400	未調査	-	・海	・津波	地下水(港湾内)	・建屋→地中→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
124	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	建屋	(2)対策が必要	建屋滞留水	建屋滞留水(1~4号機周辺建屋以外)(水質調査済)	5~6号機	約6500(H27.2)	5号機:Cs134(ND)、Cs137(3)、H3(292)、Co60(ND)、全β(148)(H27.3.12) 6号機:Cs134(8)、Cs137(27)、H3(852)、Co60(2)、全β(188)(H27.3.13)	公表済	・地下水等	・建屋水位と地下水水位の逆転	地下水(港湾内)	・建屋→地中→海	①建屋内水位 ②SDビッド	①毎日 ②週1回	・屋外タンクへの滞留水移送 ・地下水流入箇所の止水	随時
125	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	建屋	(5)現状では追加対策不要	建屋滞留水	6号機DG6B建屋	6号機北側	0	-	対象外	・無	-	地下水(港湾内)	・建屋→地中→海	-	-	-	-
126	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	建屋	(5)現状では追加対策不要	建屋滞留水	キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4500	Cs134:7.2 Cs137:23 I-131:<4.3 Co-60:<4.2 全γ放射能:3.1E+1(H26.5.23現在)	今回公表	・雨水 ・地下水	・建屋滞留水増加による溢水 ・建屋内劣化・損傷により地中に漏出	地下水(港湾内)	・建屋→地中→海	1階建屋内たまり水	不定期	・簡易的な堰の設置	実施済

(1)調査が必要 (2)対策が必要 (3)対策実施中 (4)対策実施後の状況観察中 (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析						[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況			
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	(1)水の状況			(2)流出経路			モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済／工事中		
							場所	量(m3)	放射性物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因					主な敷地外流出場所	流出経路(複数可)(敷地外へ)
127	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	屋外既設タンク	5号CSTタンク(溶接タンク)	・5号CSTタンク(溶接タンク)	屋外(10m壁)	約1083	Cs134:ND Cs137:ND Co60:1.612E+01(2015/3/12)	今回公表	・無	・設備損傷による系統外漏えい	地下水(港湾内)	・タンク→地表→地中→海	①サンプリング ②水位計	1回/月	・堰の設置	実施済
128	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	屋外既設タンク	6号CSTタンク(溶接タンク)	・6号CSTタンク(溶接タンク)	屋外(10m壁)	約1236	Cs134:ND Cs137:ND Co60:6.688E+02(2015/3/5)	今回公表	・無	・設備損傷による系統外漏えい	地下水(港湾内)	・タンク→地表→地中→海	①サンプリング ②水位計	1回/月	・堰の設置	実施済
129	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(5)現状では追加対策不要	原子炉・ウェル・DSP	5,6号機RPV・ウェル・DSP	・5,6号機RPV・ウェル・DSP	5～6号機原子炉建屋	5号:約2110 6号:約610	【5号ウェル】 Cs134:ND(<35) Cs137:ND(<45) Co60:3200(2015/4/9) 【6号ウェル】 Cs134:ND(<140) Cs137:ND(<160) Co60:48000(2015/4/2)	今回公表	・無	・損傷等による系統外漏えい	地下水(港湾内)	・設備→建屋→地中→海	建屋内水位	毎日	-	-
130	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(5)現状では追加対策不要	使用済燃料プール	5,6号機SFP	・5,6号機SFP	5～6号機原子炉建屋	・5号:約1390 ・6号:約1452	【5号】 Cs134:ND(<38) Cs137:ND(<51) Co60:2700(2015/4/9) 【6号】 Cs134:ND(<60) Cs137:ND(<70) Co60:8000(2015/4/16)	今回公表	・無	・損傷等による系統外漏えい	地下水(港湾内)	・設備→建屋→地中→海	①プール水位 ②建屋内水位	①1回/月 ②毎日	-	-
131	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(5)現状では追加対策不要	屋外既設タンク	5号廃液サージタンク(溶接タンク)	・5号廃液サージタンク(溶接タンク)	屋外(RW/B西側)	最大約208	Cs-134:ND(<14) Cs-137:ND(<22) Co60:ND(<14)(2015.2.24)	今回公表	・無	・損傷等による系統外漏えい	地下水(港湾内)	・タンク→埋内→地表→地下→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	定期的に点検(開放点検)を実施	運用中
132	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(2)対策が必要	5/6号他トレンチ	5/6号他調査済トレンチ(水有り)	・5号機海水配管トレンチ ・5号機ストームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト等	別紙(3-16.3-2.3-4.3-5.3-8.3-12.3-13.3-14.3-15.3-24.3-25.3-26.3-27.3-30.3-31.3-33.3-34.3-36.3-37.3-41.3-47.3-53)	約1～1200/トレンチ	Cs134:ND～2.2E3 Cs137:7.2E1～3.3E3(採取期間:H24.1)	公表済	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(港湾内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	-	-
133	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク トレンチ類	(5)現状では追加対策不要	5/6号他トレンチ	5/6号他調査済トレンチ(水無し)	・5号機共通配管ダクト ・No.3軽油配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ ・5号機薬品タンク連絡ダクト ・サブレーションプール水配管トレンチ等	別紙(3-3.3-6.3-7.3-9.3-10.3-11.3-17.3-18.3-19.3-20.3-21.3-22.3-28.3-29.3-32.3-35.3-38.3-39.3-40.3-42.3-43.3-44.3-45.3-46.3-48.3-49.3-50.3-51.3-52.3-54)	0	-	対象外	・雨水浸入 ・地下水流入	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(港湾内)	・トレンチ→地表→海 ・トレンチ→地中→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	-	-
134	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(1)調査が必要	変圧器防油堤	5,6号機周辺変圧器防油堤	・5号機変圧器防油堤 ・5号機起動用変圧器防油堤 ・6号機変圧器防油堤	5,6号機西側	約220(H23.10)	未調査	-	・雨水	・降雨	地下水(港湾内)	・堤内→地中→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
135	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(1)調査が必要	SDピット(1～4号稼働予定ピット除く)	5,6号機サブドレン(ディーブウェル含む)(未調査)	・6号機D/G建屋サブドレン ・5号機ディーブウェル	6号機北側別紙(SD) ※「既設・未復旧」	約15/ピット	未調査	-	・地下水 ・雨水	・ピット内から周辺地下水への流出 ・豪雨時等の地下水水位上昇による溢水	地下水(港湾内)	・ピット→地中→海 ・ピット→地表→排水路→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
136	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(4)対策実施後の状況観察中	SDピット(1～4号稼働予定ピット除く)	5,6号機サブドレン(コンクリート充填済)	・5,6号機サブドレン(コンクリート充填済)	5～6号機周辺別紙(SD) ※「復旧対象外」	対策(充填)済	対策(充填)済	対象外	・無	-	地下水(港湾内)	・ピット→地中→海	-	-	・コンクリート充填	実施済



(1)調査が必要 (2)対策が必要 (3)対策実施中 (4)対策実施後の状況観察中 (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析						[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況			
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	場所	量 (m3)	放射線物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所	流出経路(複数可)(敷地外へ)	モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/工事中
137	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ビット類	(5)現状では追加対策不要	SDビット(1~4号稼働予定ビット除く)	5, 6号機サブドレン(ディーブウェル含む)(水質調査済)	・5,6号機サブドレンビット	5~6号機周辺別紙(SD)※「復旧対象」	約15/ビット	Cs134:ND~0.34 Cs134:ND~0.95 全β:ND~2.6 H-3:ND~25 ※採水期間:H26.8~H26.11	今回公表	・地下水 ・雨水	・ビット内から周辺地下水への流出 ・豪雨時等の地下水位上昇による溢水	地下水(港湾内)	・ビット→地中→海 ・ビット→地表→排水路→海	ビット内水	不定期(代表ビット週1回)	-	-
138	地下水(港湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ビット類	(5)現状では追加対策不要	SDビット(1~4号稼働予定ビット除く)	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ビット	Cs134:1.0E+1 Cs137:1.4E+1 Co-60:<6.0E-01 全γ放射能:2.4E+1(H24.1.18)	今回公表	・地下水 ・雨水	・ビット内から周辺地下水への流出 ・豪雨時等の地下水位上昇による溢水	地下水(港湾内)	・ビット→地中→海 ・ビット→地表→排水路→海	ビット内水	不定期	-	-
139	地下水(港湾外)	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(1)調査が必要	地面	地面・立木(フェーシングを予定していない箇所)	・地面・立木(フェーシングを予定していない箇所)	敷地北側南護岸エリア 他	-	-	対象外	・雨水	・降雨	地下水(港湾外)	・地表→地中→海	-	-	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
140	地下水(港湾外)	作業により発生する水 作業	(3)対策実施中	作業	5, 6号機滞留水浄化後の水の構内散水	・5,6号機滞留水浄化後の水の構内散水	5, 6号機北側森林(土捨場近傍等)	約110m3/日	Cs134:ND(<1.3) Cs137:ND(<1.4) (2011/10/22)	公表済	-	・散水	地下水(港湾外)	・地中→海	滞留水浄化後の貯蔵タンク	散水前	・散水前に散水基準である「告示濃度比0.22以下」であることを確認し散水を実施	実施中
141	地下水(港湾外)	作業により発生する水 作業	(3)対策実施中	作業	滞留水貯留タンクまわり堰内雨水の散水	・滞留水貯留タンクまわり堰内雨水の散水	・5, 6号機北側堰周辺 ・大熊散水地(敷地南側)	約20~160m3/回(降雨時)	Cs134:ND(<5.0E-1) Cs137:ND(<7.6E-1) 全β:ND(<4.2E+0) (2015/3/30)	公表済	-	・散水	地下水(港湾外)	・地中→海	雨水回収後のタンク	散水前	・散水前に散水基準である「告示濃度比0.22以下」であることを確認し散水を実施	実施中
142	地下水(港湾外)	作業により発生する水 作業	(1)調査が必要	作業	その他エリアにおける作業に伴う水	・車両泥落とし作業 ・消防車両の洗浄水(除染用) ・車両洗浄水 他	・旧ヘリポート ・消防車庫脇 ・車両除染場	(旧ヘリポート)約0.8 (消防車庫脇)約16 (車両除染場回収タンク)約60	未調査	-	・無	・泥落とし ・タンク損傷等による漏えい	地下水(港湾外)	・地表→地中→海	-	-	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
143	地下水(港湾外)	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保有水	(1)調査が必要	既設設備	集中RW屋内設備	・集中廃棄物処理建屋各系統・設備(配管・タンク・ポンプ等) ・地下造粒固化体貯槽(D)等	建屋内	未調査	未調査	-	・無	・損傷等による系統外漏えい	地下水(港湾外)	・設備→建屋→地下水→海 ・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→海	SD(集中RW)	毎日	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
144	地下水(港湾外)	汚染源となるたまり水が存在するリスク 建屋	(1)調査が必要	建屋滞留水	集中RW建屋(未調査)	・焼却工作建屋 ・サイト/バンカ建屋	10M盤	(焼却工作建屋)約570 (サイト/バンカ建屋)約800	【焼却建屋・工作建屋】 2014/4滞留水汲上げ以降、未調査 【サイト/バンカ建屋】 2012年以降、未調査	-	・雨水 ・地下水	・建屋水位と地下水位の逆転	地下水(港湾外)	・建屋→地中→海	SD(集中RW)	毎日	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
145	地下水(港湾外)	汚染源となるたまり水が存在するリスク 建屋	(2)対策が必要	建屋滞留水	集中RW建屋(水質調査済)	・プロセス主建屋 ・HTI建屋 ・SPT建屋	10M盤	【プロセス主建屋】(H27.2.10) Cs134:6.7E+6 Cs137:2.2E+7 【HTI建屋】(H27.2.10) Cs134:6.8E+6 Cs137:2.5E+7 【SPT建屋】 約3800 (2015/3/24) Cs134:1.2E+4 Cs137:2.6E+4 (2013/8/22) Cs137:	公表済	・1~4号建屋滞留水、雨水、地下水等	・建屋水位と地下水位の逆転	地下水(港湾外)	・建屋→地中→海	①建屋水位 ②タービン建屋東側地下水 ③SD(集中RW)	①常時 ②週1回 ③毎日	・地下水BPIによる流入量低減	実施中	
146	地下水(港湾外)	汚染源となるたまり水が存在するリスク 建屋	(5)現状では追加対策不要	建屋滞留水	共用プール建屋	・共用プール建屋	10M盤	降雨量により変動(4/7現在、地下配管貫通部より約15秒に1滴地下水流入)	Cs134:2.1E-2 Cs137:6.0E-2 全β:1.7E-1 (H26.7.3)	公表済	・地下水等	・ビット劣化・損傷により地中に漏出	地下水(港湾外)	・建屋→地中→海	SD(集中RW) 地下水流入箇所	毎日 不定期	-	-
147	地下水(港湾外)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	屋外既設タンク	SPTタンク(1~4号)(A)(溶接タンク)	・SPTタンク(1~4号)(A)(溶接タンク)	SPT建屋	約2800(H27.3.25時点水位8335mm)	Cs134:8.0E+4 Cs137:1.6E+5 Co60:6.5E+2 (H25.8.27)	今回公表	・建屋地下の汚染水	・設備損傷による系統外漏えい ・漏えいした水はSPT建屋内に滞留	地下水(港湾外)	・タンク→建屋→地中→海	タンク水位	常時	・SPT建屋内に設置	実施済

(1)調査が必要 (2)対策が必要 (3)対策実施中 (4)対策実施後の状況観察中 (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析							[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況		
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	(1)水の状況				(2)流出経路			モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済／工事中	
							場所	量(m3)	放射性物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所					流出経路(複数可)(敷地外へ)
148	地下水(港湾外)	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(4)対策実施後の状況観察中	屋外既設タンク	SPTタンク(1～4号)(B) (溶接タンク)	・SPTタンク(1～4号)(B) (溶接タンク)	SPT建屋	約3500 (タンク容量)	<上流> 【セシウム吸着装置処理後水】 Cs134:ND、Cs137: 1.7E+2(2015/2/10) 【第二セシウム吸着装置処理後水A系】 Cs134:ND、Cs137: 1.9E+2(2015/2/17) 【第二セシウム吸着装置処理後水B系】 Cs134:6.9E+2、Cs137: 2.6E+3(2015/2/17) <下流> 【淡水化装置入口水】 Cs134:ND、Cs137:1.8E+3、 H3:4.1E+5(2015/2/10)	公表済	・無	・設備損傷による系統外漏れ ・漏れした水はSPT建屋内に滞留	地下水(港湾外)	・タンク→建屋→地中→海	①タンク水位 ②パトロール監視	①常時 ②毎日	・SPT建屋内に設置	実施済
149	地下水(港湾外)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(1)調査が必要	その他井戸等	7/8号機試掘坑	・7/8号機試掘坑	構内(7/8号機増設用地)	未調査	未調査	-	・雨水 ・地下水	・坑内から周辺地下水への流出	地下水(港湾外)	・ピット→地中→海	-	-	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-
150	地下水(港湾外)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(2)対策が必要	SDピット(1～4号稼働予定ピット除く)	集中ラド周りサブドレン	・集中ラド周りサブドレン	主プロセス建屋等各建屋周辺別紙(SD)	約15/ピット	Cs134:ND～53 Cs137:ND～130 全β:ND～240 H-3:14～210 ※採水期間:H25.12.12～ H25.12.19	公表済	・地下水 ・雨水	・ピット内から周辺地下水への流出 ・豪雨時等の地下水位上昇による溢水	地下水(港湾外)	・ピット→地中→海 ・ピット→地表→排水路→海	タービン建屋東側地下水	週1回	-	-
151	地下水(港湾外)	汚染源となるたまり水が存在するリスク ピット類	(5)現状では追加対策不要	その他井戸等	深井戸	・深井戸	発電所敷地周辺等	約6/孔	深井戸No.3 Cs134:0.010～ 0.015(H24.5.30～6.13) Cs137:0.012～ 0.027(H24.5.30～6.13) Sr90:ND(<0.0067)(H24.5.30～6.13) H3:9(H24.5.30～6.13)	公表済	・敷地外で降雨が地盤に浸透し流動してきたもの	・地下水流動	地下水(港湾外)	・地中→海	1孔(深井戸No.3)	H24年に2回実施	-	-
152	表流水	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(3)対策実施中	瓦礫	1～4号機周辺4M盤瓦礫	・海側4M盤海水ポンプ廻りガレキ	1～4号機海側4m盤エリア	-	-	対象外	・雨水	・降雨	表流水	・地表→海 ・地表→地中→海	海水	週1回	・ガレキの撤去	・工事中
153	表流水	汚染源となるたまり水が存在するリスク 設備内保水	(4)対策実施後の状況観察中	その他震災後設置設備	ウェルポイント移送設備	・タンク、配管 等	屋外・建屋内	約30	【1.2号機間ウェルポイント汲み上げ水】 Cs134:16(2015/3/30採取) Cs137:59(2015/3/30採取) 全β:5.7E+05(2015/3/30採取) H3:5.3E+04(2015/3/23採取) 【2.3号機間ウェルポイント汲み上げ水】 Cs134:ND(0.38)(2015/3/29採取) Cs137:0.57(2015/3/29採取) 全β:700(2015/3/29採取) H3:380(2015/3/25採取)	公表済	・無	・損傷等による系統外漏れ	表流水	・設備→地表→排水路→海 ・設備→地表→海 ・設備→地中→海	①海水(港湾内外) ②タービン建屋東側地下水	①週1回 ②週1回	・タンク堰設置 ・漏れい建築 ・パトロール	実施済
154	表流水	汚染源となるたまり水が存在するリスク タンク・槽類	(1)調査が必要	屋外既設タンク	5、6号機海側屋外既設タンク	・SPTタンク(5～6号)	物揚場 北側	約250 (H23.3.11時点)	未調査	-	・雨水	・設備損傷による系統外漏れ	表流水	・タンク→堰内→地表→海	港湾内外(取水口前、放水口北側)	週1回	・優先度を踏まえ調査方法を検討	-

(1)調査が必要
(2)対策が必要
(3)対策実施中
(4)対策実施後の状況観察中
(5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所洗い出し						[2]リスクの分析							[3]影響モニタリング状況の整理		[4]現状の調査・対策状況			
	主たる流出経路	カテゴリ		対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	主要箇所名称	(1)水の状況			(2)流出経路				モニタリング対象・箇所	頻度	対策内容	運用済／工事中	
		港湾内	港湾外					場所	量(m3)	放射性物質濃度[Bq/L]	左記濃度データの公表	想定される流入元	流出の発生要因	主な敷地外流出場所					流出経路(複数可)(敷地外へ)
155	港湾内	港湾内	港湾内	(3)対策実施中	海底土等	港湾内海底土等	・海底土 ・港湾設備の機能劣化(防波堤等)	港湾内海底	-	【港湾内海水】 Cs134:ND~11 Cs137:ND~42 全β:ND~400 H3:3.1~1100 (2015/3/23、3/30採取)	公表済	-	-	-	-	-	・海底土の被覆	実施中	
156	港湾内	汚染源となるたまり水が存在するリスク	タンク・槽類	(5)現状では追加対策不要	その他	メガフロート	・メガフロート	港湾内	約8000	Cs134(2)、Cs137(6)、H3(ND)、Co60(5)、Sr90(ND) Bq/L (2014.9.12)	今回公表	・港湾内にて移設時、当初の滞留水は全て移送し、バラスト水としてろ過水を水張りした。	・津波等により係船ロープが全て切断した場合、港湾内の護岸等に衝突し破損し漏えいする可能性あり。	港湾内	・メガフロート→海	メガフロート内水	-	・メガフロートの係船ロープは、定期的に点検すると共に台風・大型の低気圧等波浪の影響時にも随時点検している。	-
157	共通	その他	その他	(1)調査が必要	その他	油・薬品等の設備からの漏えい	・No.1~6軽油タンク ・環境施設重油タンク ・1~4号薬品タンク(硫酸・苛性) ・5.6号薬品タンク(硫酸・苛性)等	-	-	-	対象外	・無	・設備損傷による系統外漏えい	共通	・リスク源→敷地外	-	-	-	-
158	共通	その他	その他	(3)対策実施中	その他	火災による設備からの漏えい	・火災	-	-	-	対象外	-	・火災による設備からの漏えい	共通	・リスク源→敷地外	-	-	・パトロール、物品管理等	実施中
159	共通	その他	その他	(3)対策実施中	その他	人的要因による敷地外への漏出(持ち出し等を含む)	-	-	-	-	対象外	-	・作業員の誤操作等による汚染した水の敷地外流出	共通	・リスク源→敷地外	-	-	・操作者の教育・訓練 ・パトロール、施設管理等	実施中

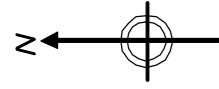
(1)調査が必要
  (2)対策が必要
  (3)対策実施中
  (4)対策実施後の状況観察中
  (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所の洗い出し			[2]リスクの分析	[3]影響モニタリング状況の整理			[4]対策状況の整理		対策の必要性		
	カテゴリ	種類	個別名称	(1)ダスト発生時の想定	想定される事象	モニタリング 実績の有無	モニタリング 対象・箇所	頻度	対策内容		運用済/ 工事中	
160	ダストが発生するリスク	作業に伴い発生	建屋(上部廃棄物)撤去	1～4号機建屋周辺整備工事	建屋躯体等に付着したダストが解体・撤去時に飛散	有	MP	常時	飛散防止剤散布、散水設備等	工事開始後に実施	(1)調査が必要	
161				2号機原子炉建屋一部解体	建屋躯体に付着したダストが解体時に飛散	有	MP	常時	飛散抑制対策・解体工法検討中	工事開始後に実施	(1)調査が必要	
162				その他作業	その他の作業	その他作業においてダストが発生する。	有	MP 各作業により適宜実施	常時	各作業において適宜実施	—	(1)調査が必要
163			タンク解体	フランジタンク解体・残水処理	フランジタンク解体・残水処理	解体・残水処理中にタンク内表面から発生するダストが高い濃度で飛散する。	有	タンク表面からのダスト MP	3回/日 常時	解体前にタンク表面散水し汚染を流し、タンク下部には局所排風機を設置し解体・残水処理中に連続でダストを吸引する。	工事開始後に実施	(2)対策が必要
164					フランジタンク切断	切断時に発生するダストが切断エリアの建屋外に飛散する。	有	切断部分からのダスト MP	1回/日 常時	切断は屋内(定検機材倉庫内)で実施し、当該建屋には弱負圧制御の換気設備も配備。	工事開始後に実施	(2)対策が必要
165			建屋(上部廃棄物)撤去	1号機原子炉建屋オペレーティングフロア上のガレキ撤去	1号機原子炉建屋オペレーティングフロア上のガレキ撤去	ガレキに付着したダストが撤去時に飛散	有	オペフロ上 MP	24時間 常時	飛散防止剤散布、散水設備、ガレキ吸引等	関連作業実施中	(3)対策実施中
166					2号機原子炉建屋 大物搬入口屋上防水補修	ルーフブロック等に付着したダストが撤去時に飛散	有	MP	常時	仮設屋根設置	実施中	(3)対策実施中
167					3号機原子炉建屋オペレーティングフロア上のガレキ撤去・除染	ガレキ・コンクリート床に付着したダストが撤去・除染時に飛散	有	オペフロ上 MP	24時間 常時	飛散防止剤散布	実施中	(3)対策実施中
168					3号 SFP内瓦礫	3号機西側ヤードにて切断作業を行っているため、ダスト濃度の上昇が考えられる。	有	MP	常時	・大型瓦礫に関しては、飛散防止の塗布	実施中	(3)対策実施中
169					ガレキ撤去用重機、除染重機	解体・除染重機等に付着したダストが飛散	有	MP	常時	定期的な除染	実施中	(3)対策実施中
170			シート破損等に伴い発生	既設空調等設備	2号機原子炉建屋排気設備	ダクト損傷等による系統外漏えい	有	MP	常時	当該系統排出口にてモニタリングを実施している。	運用中	(1)調査が必要
171					1～4号機既設原子炉設備(HVAC系)	ダクト損傷等による配管内ダストの飛散	有	MP	常時	—	—	(1)調査が必要
172					1～4号機既設原子炉設備(AC系)	配管損傷等による配管内ダストの飛散	有	MP	常時	—	—	(1)調査が必要
173					1～4号機既設原子炉設備(SGTS系)	配管損傷等による配管内ダストの飛散	有	MP	常時	—	—	(1)調査が必要
174					廃棄物保管場所	仮設保管設備	テント膜の破れ	有	入口付近 MP	1回/6月 常時	破損後の補修	随時
175	瓦礫類一時保管エリア(シート養生)	養生シートの破れ		有		入口付近 MP	1回/3月 常時	破損後の補修	随時	(2)対策が必要		
176	瓦礫類一時保管エリア(容器収納)	容器の破損等によるダストの飛散		有		入口付近 MP	1回/3月 常時	金属製容器に収納	運用済	(4)対策実施後の状況観察中		
177	伐採木一時保管槽	覆土及び遮水シートの破損によるダストの飛散		有		入口付近 MP	1回/6月 常時	伐採木(枝葉チップ)は保管槽に収納し、上部に覆土・遮へいシート設置	運用済	(4)対策実施後の状況観察中		
178	震災後追加設備	1～3号機PCVガス管理設備		配管損傷等による系統外漏えい	有	粒子除去フィルタ上流 MP	非定例 (過去に数回) 常時	毎週のパトロール、毎日の運転パラメータ確認により、大きな漏えいがあれば検知可能	運用済	(4)対策実施後の状況観察中		
179		原子炉注水設備		注水停止により炉内温度が上昇し、ダスト濃度上昇	有	PCVガス管理システム MP	毎時 常時	原子炉への注水を12時間以内に再開できるよう準備しており、MPの通常の変動の範囲内と評価。	運用済	(4)対策実施後の状況観察中		
180	廃棄物保管場所	固体廃棄物貯蔵庫		建屋崩落により、容器が破損しダストが飛散	有	入口付近 MP	1回/3月 常時	建屋内に容器収納して保管	運用済	(4)対策実施後の状況観察中		
181		覆土式一時保管施設	上部遮水シート及び覆土の破損によるダストの飛散	有	入口付近 MP	1回/3月 常時	瓦礫類の上部/下部に遮水シート設置	運用済	(4)対策実施後の状況観察中			

(1)調査が必要
  (2)対策が必要
  (3)対策実施中
  (4)対策実施後の状況観察中
  (5)現状では追加対策不要

No.	[1]リスクの存在箇所の洗い出し			[2]リスクの分析	[3]影響モニタリング状況の整理			[4]対策状況の整理		対策の必要性		
	カテゴリ	種類	個別名称	(1)ダスト発生の想定 想定される事象	モニタリング 実績の有無	モニタリング 対象・箇所	頻度	対策内容	運用済/ 工事中			
182	ダストが発生するリスク	作業・破損等によらず発生	地上設備等	その他地面・設備	地面等に付着したダストが風等により飛散	有	MP	常時	—	—	(1)調査が必要	
183			建屋屋上	構内屋上	建屋屋上のフールアウト・ガレキに付着したダストが強風や地震によるガレキ崩落により飛散	有	MP	常時	—	—	(1)調査が必要	
184			廃棄物保管場所	瓦礫類一時保管エリア(屋外集積)	瓦礫に付着したダストが風等により飛散	有	入口付近MP	1回/3月 常時	—	—	(2)対策が必要	
185				伐採木一時保管エリア(屋外集積)	伐採木(幹根)に付着したダストが風等により飛散	有	入口付近MP	1回/3月 常時	高線量箇所を除去	実施済	(4)対策実施後の状況観察中	
186			地上設備等	原子炉建屋上部 ガレキ置き場	高線量瓦礫置き場に仮置きしたガレキに付着したダストが飛散	有	MP	常時	飛散防止剤散布	実施中	(3)対策実施中	
187				1～4号機周辺地盤	建屋周囲の地盤面に散乱したフールアウト・ガレキに付着したダストが飛散	有	MP	常時	ガレキ撤去・フェーシング	実施中	(3)対策実施中	
188				その他	1～4号T/B、RW/B、HTI、プロセスSb建屋地下開口部	各建屋の地下開口部からのダスト飛散	有	各建屋MP	1回/3ヶ月 常時	各建屋の地下開口部についてはバルーン、不燃シート等により閉止	実施済	(4)対策実施後の状況観察中
189			共通	共通	共通	火災	火災によるダスト飛散	有	MP	常時	・パトロール、物品管理等	実施中
190				その他	人的要因によるダスト飛散	有	MP	常時	・操作者の教育・訓練 ・パトロール、施錠管理等	実施中	(3)対策実施中	



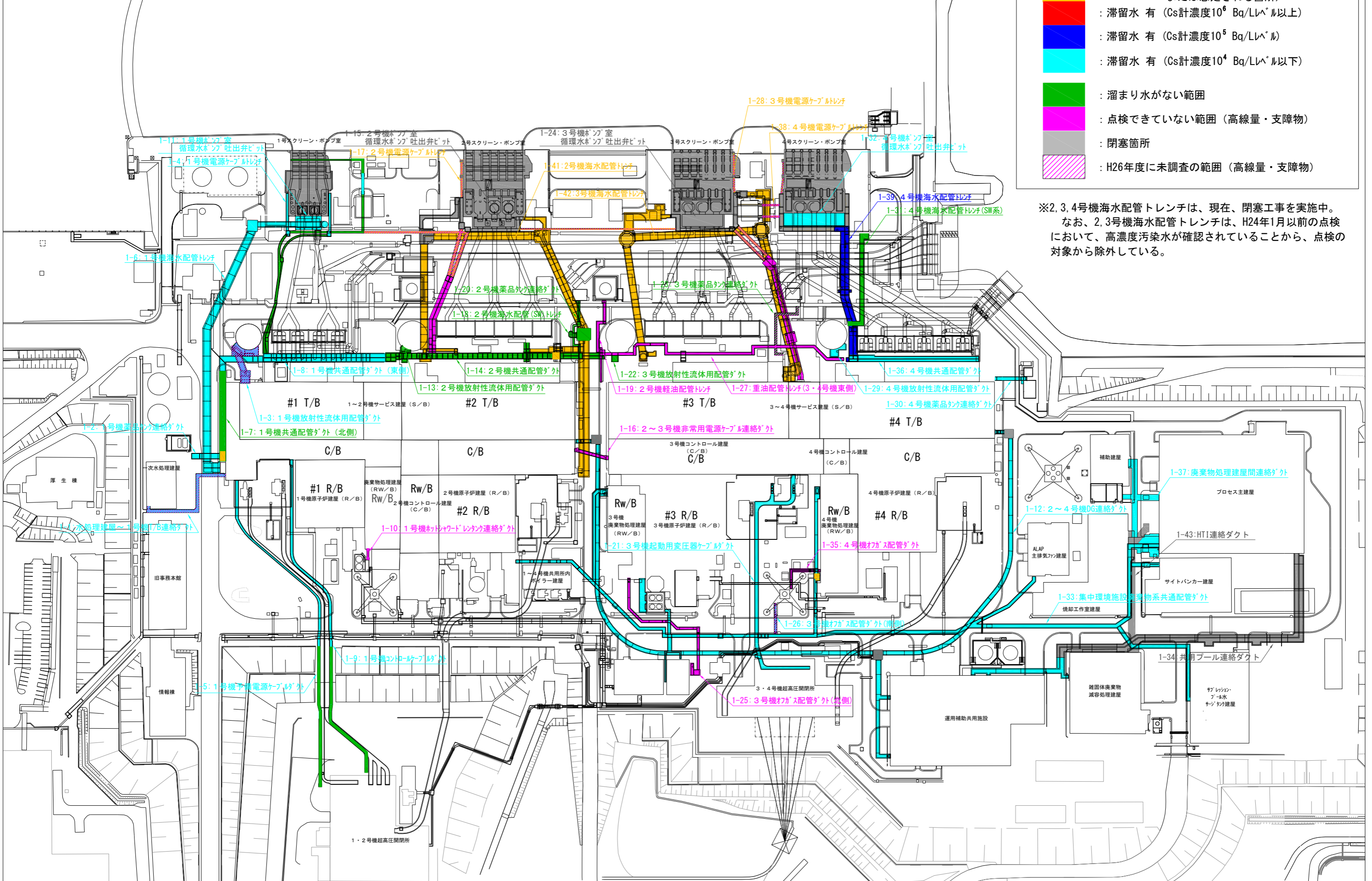


# [滞留水がある建屋に接続しているトレンチ等 溜まり水調査結果]

## 凡例

- : 滞留水 有 (Cs計濃度 $10^7$  Bq/Lレベル以上を確認、または想定される箇所)
- : 滞留水 有 (Cs計濃度 $10^6$  Bq/Lレベル以上)
- : 滞留水 有 (Cs計濃度 $10^5$  Bq/Lレベル)
- : 滞留水 有 (Cs計濃度 $10^4$  Bq/Lレベル以下)
- : 溜まり水がない範囲
- : 点検できていない範囲 (高線量・支障物)
- : 閉塞箇所
- : H26年度に未調査の範囲 (高線量・支障物)

※2, 3, 4号機海水配管トレンチは、現在、閉塞工事を実施中。  
 なお、2, 3号機海水配管トレンチは、H24年1月以前の点検において、高濃度汚染水が確認されていることから、点検の対象から除外している。

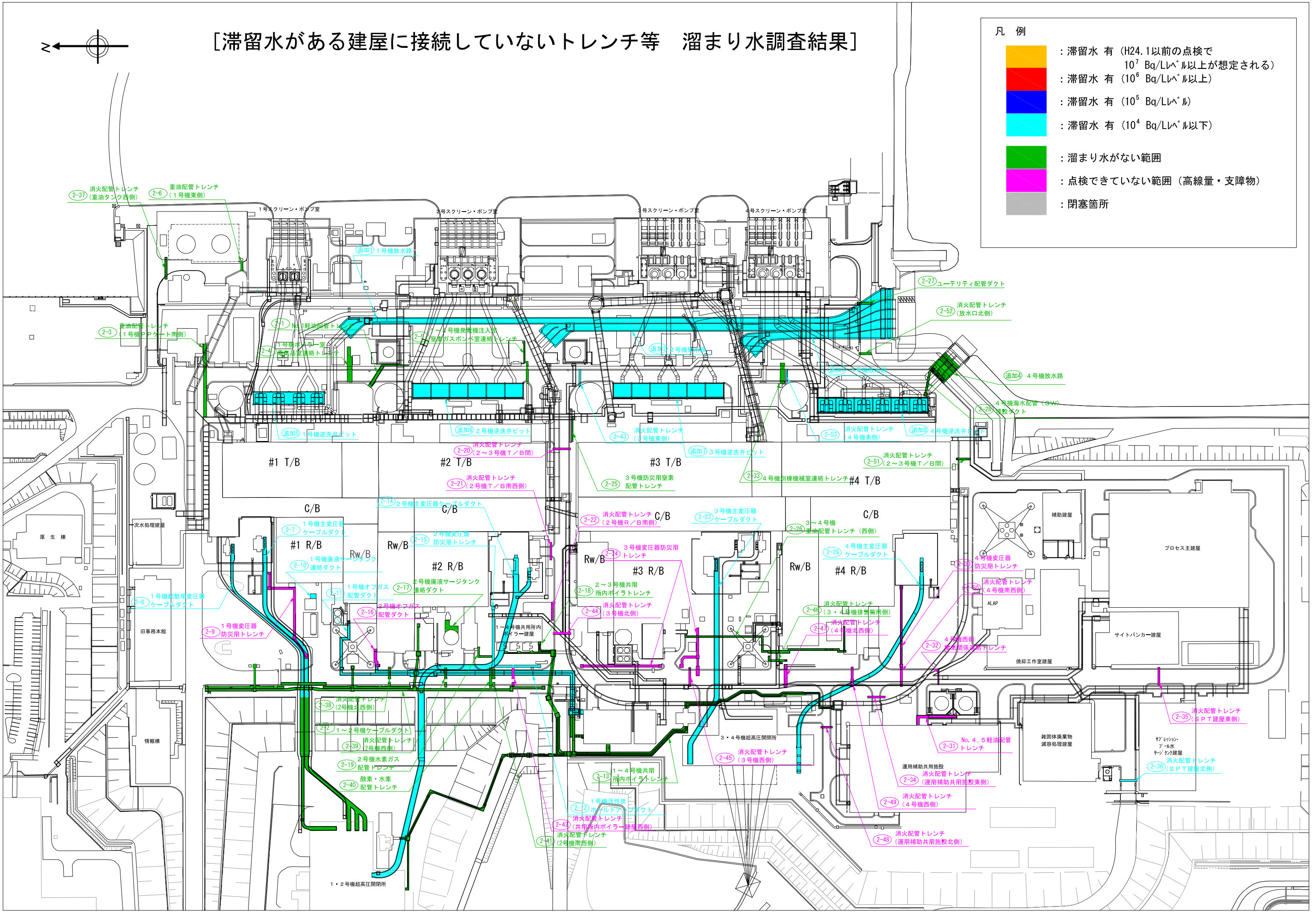


1・2号機超高压開閉所

# [滞留水がある建屋に接続していないトレンチ等 溜まり水調査結果]

凡例

- : 滞留水 有 (H24.1以前の点検で  $10^7$  Bq/Lレベル以上が想定される)
- : 滞留水 有 ( $10^6$  Bq/Lレベル以上)
- : 滞留水 有 ( $10^5$  Bq/Lレベル)
- : 滞留水 有 ( $10^4$  Bq/Lレベル以下)
- : 溜まり水がない範囲
- : 点検できていない範囲 (高線量・支障物)
- : 閉塞箇所

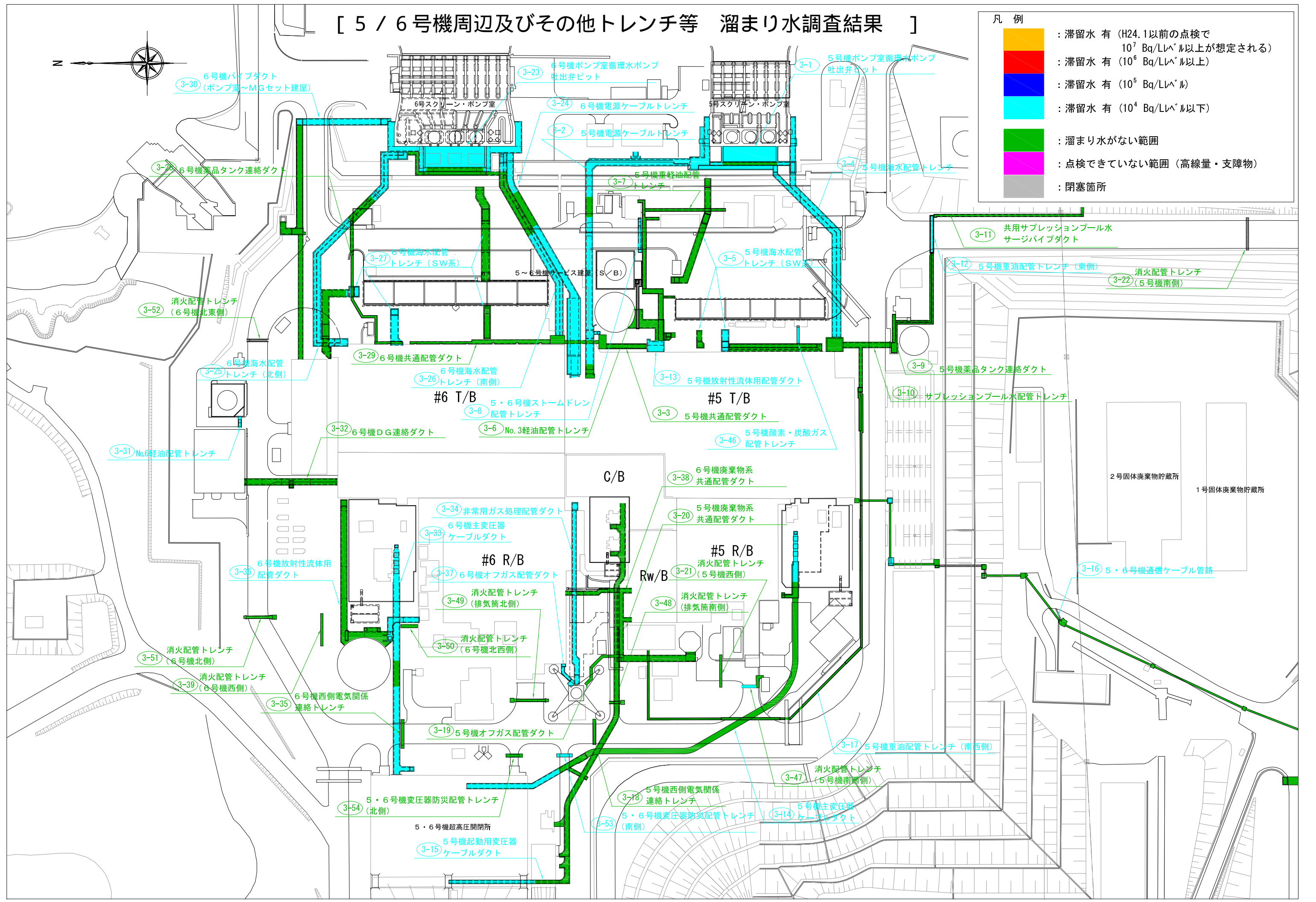




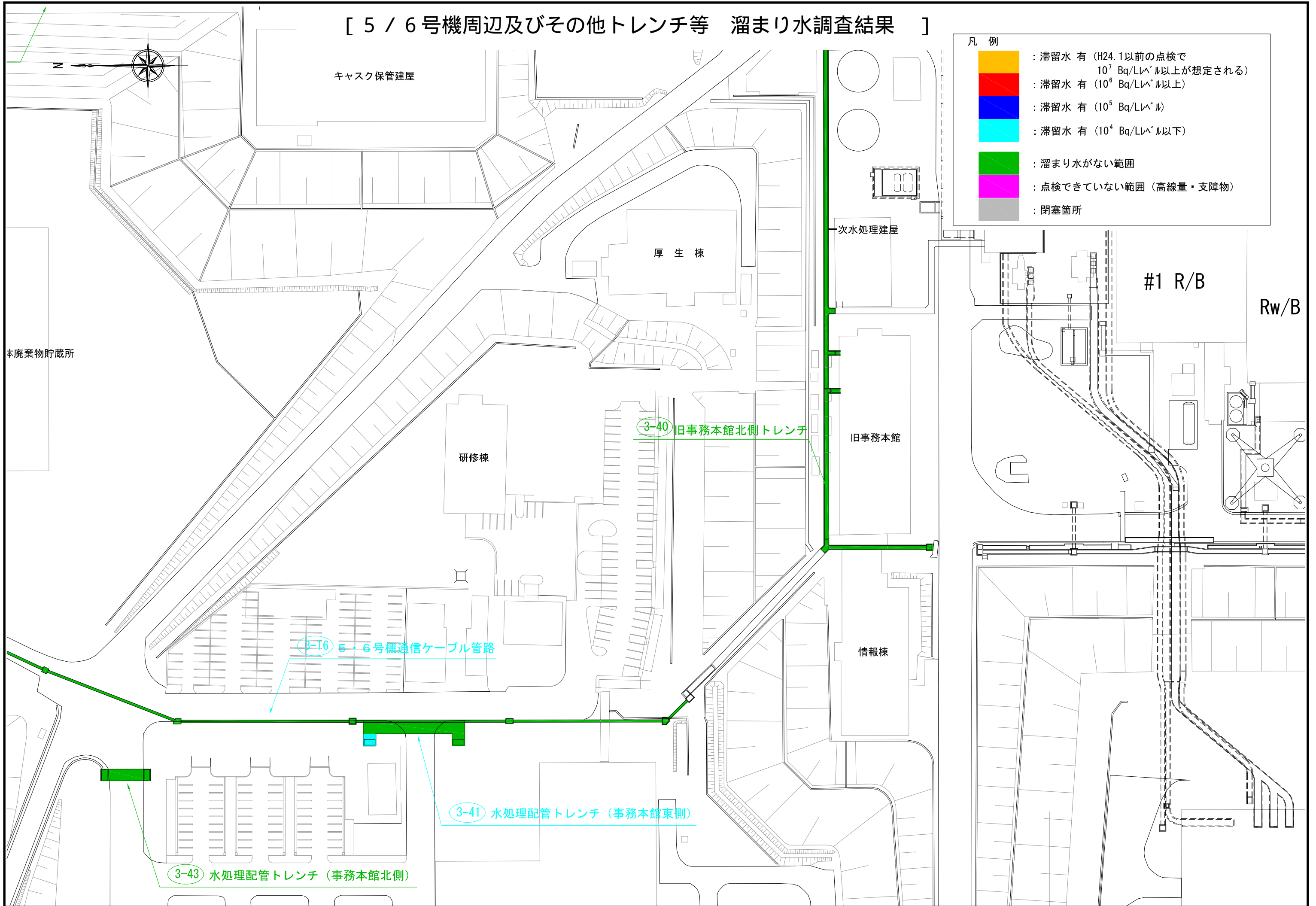
# [ 5 / 6号機周辺及びその他トレンチ等 溜まり水調査結果 ]

凡例

	: 滞留水 有 (H24.1以前の点検で $10^7$ Bq/Lレベル以上が想定される)
	: 滞留水 有 ( $10^6$ Bq/Lレベル以上)
	: 滞留水 有 ( $10^5$ Bq/Lレベル)
	: 滞留水 有 ( $10^4$ Bq/Lレベル以下)
	: 溜まり水がない範囲
	: 点検できていない範囲 (高線量・支障物)
	: 閉塞箇所



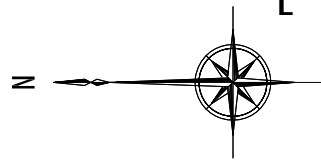
[ 5 / 6号機周辺及びその他トレンチ等 溜まり水調査結果 ]



凡例

Orange	: 滞留水 有 (H24.1以前の点検で $10^7$ Bq/Lレベル以上が想定される)
Red	: 滞留水 有 ( $10^6$ Bq/Lレベル以上)
Blue	: 滞留水 有 ( $10^5$ Bq/Lレベル)
Cyan	: 滞留水 有 ( $10^4$ Bq/Lレベル以下)
Green	: 溜まり水がない範囲
Magenta	: 点検できていない範囲 (高線量・支障物)
Grey	: 閉塞箇所

# [ 5 / 6号機周辺及びその他トレンチ等 溜まり水調査結果 ]



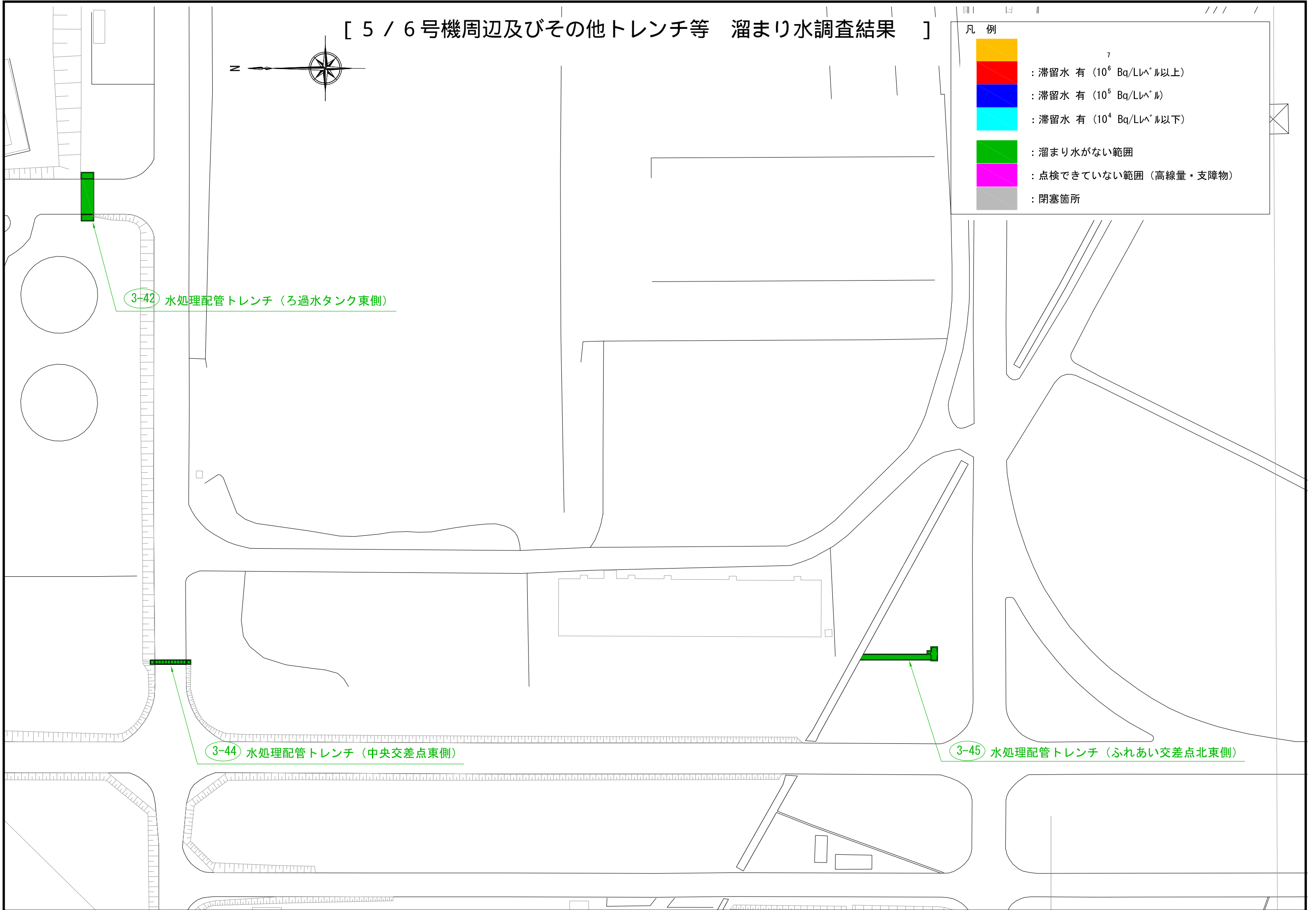
凡 例

	: 滞留水 有 ( $10^6$ Bq/Lレベル以上)
	: 滞留水 有 ( $10^5$ Bq/Lレベル)
	: 滞留水 有 ( $10^4$ Bq/Lレベル以下)
	: 溜まり水がない範囲
	: 点検できていない範囲 (高線量・支障物)
	: 閉塞箇所

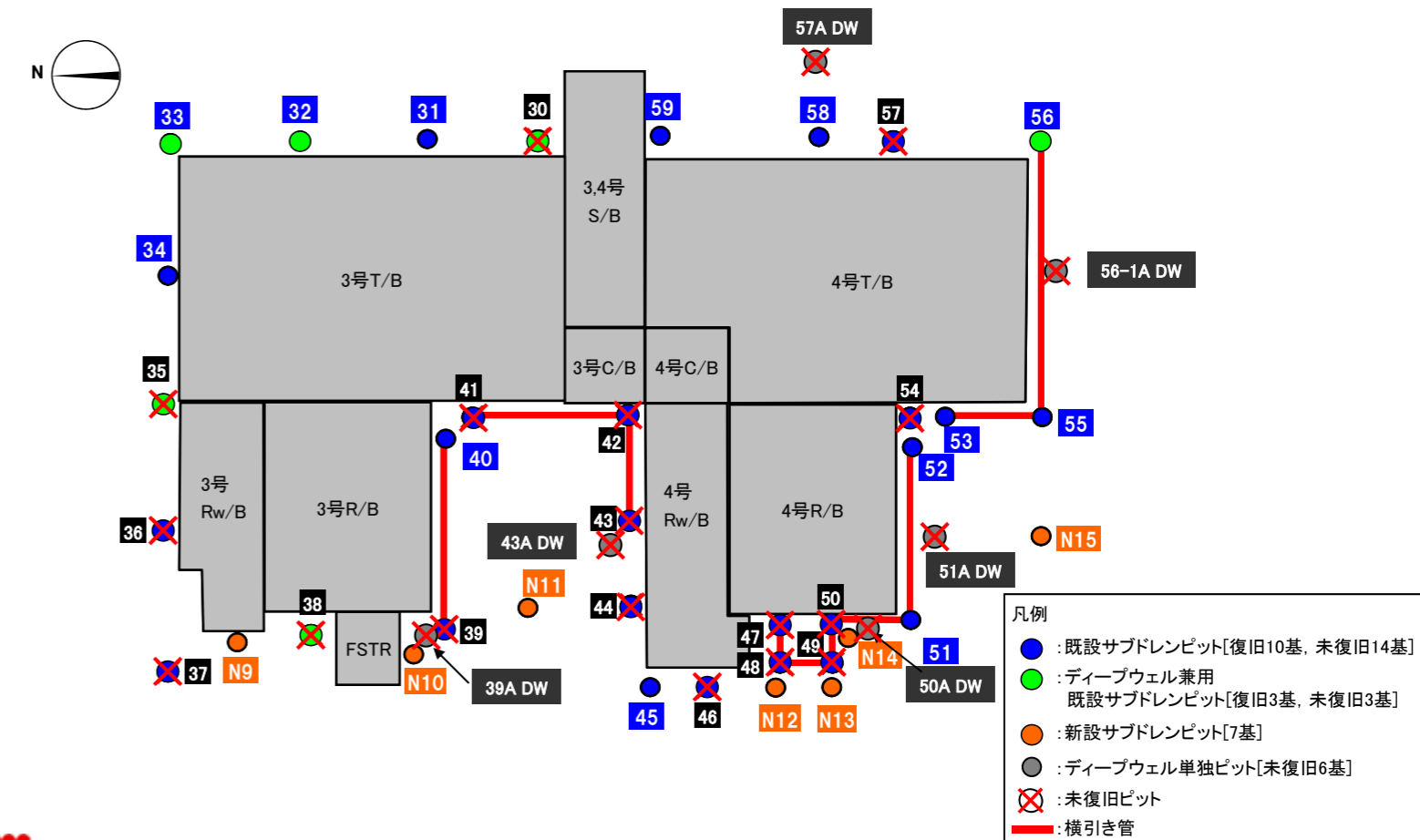
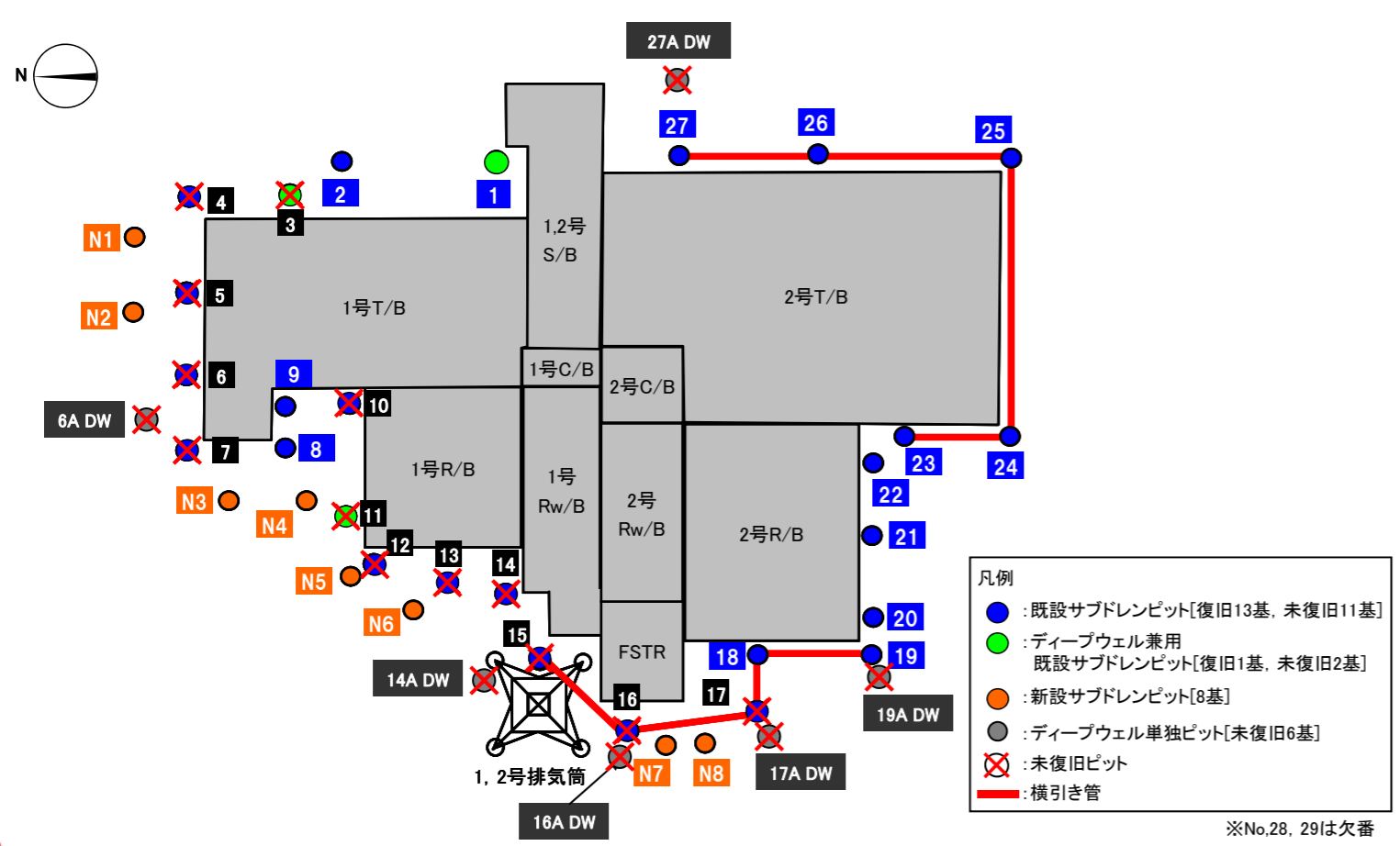
3-42 水処理配管トレンチ (ろ過水タンク東側)

3-44 水処理配管トレンチ (中央交差点東側)

3-45 水処理配管トレンチ (ふれあい交差点北東側)





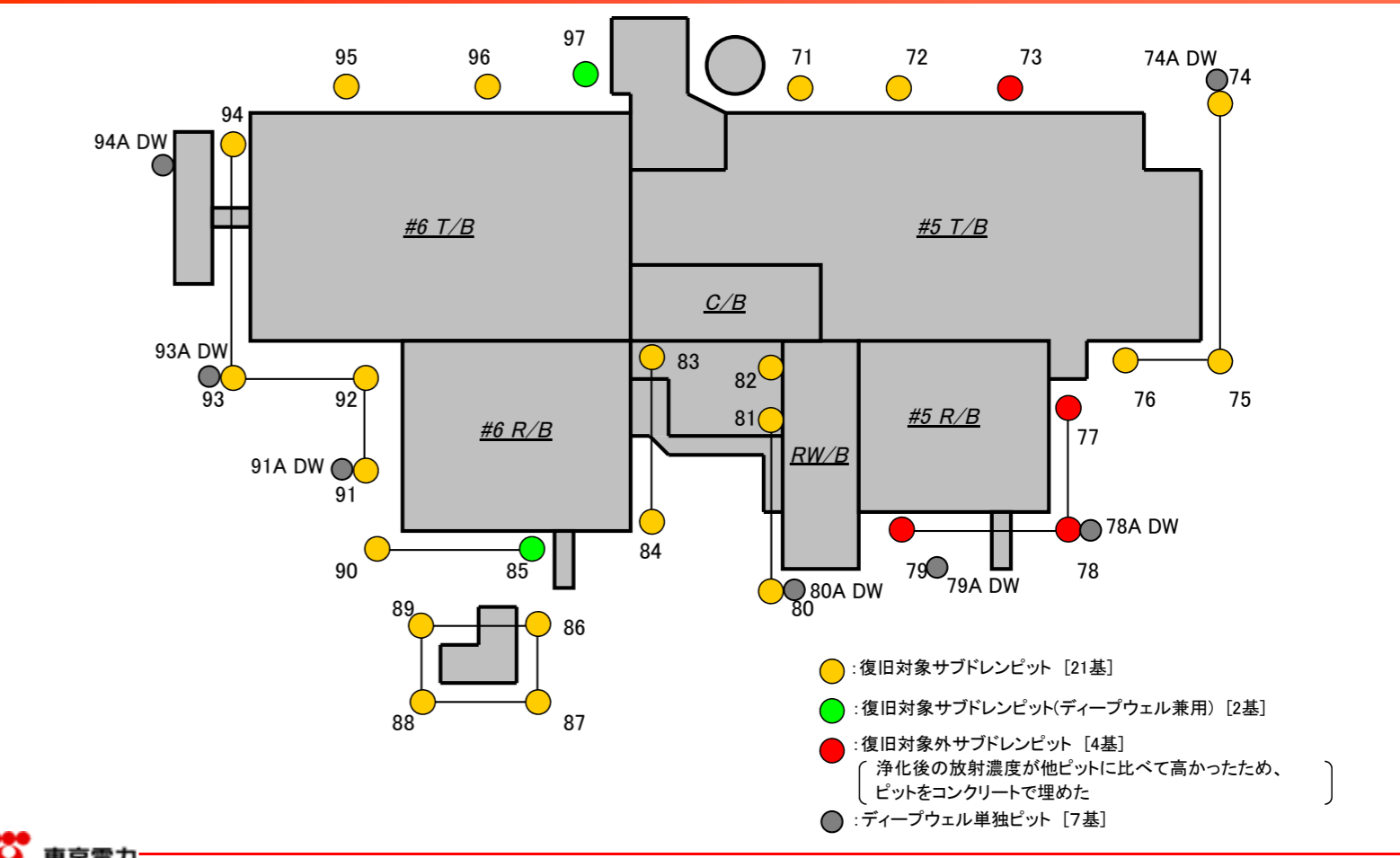
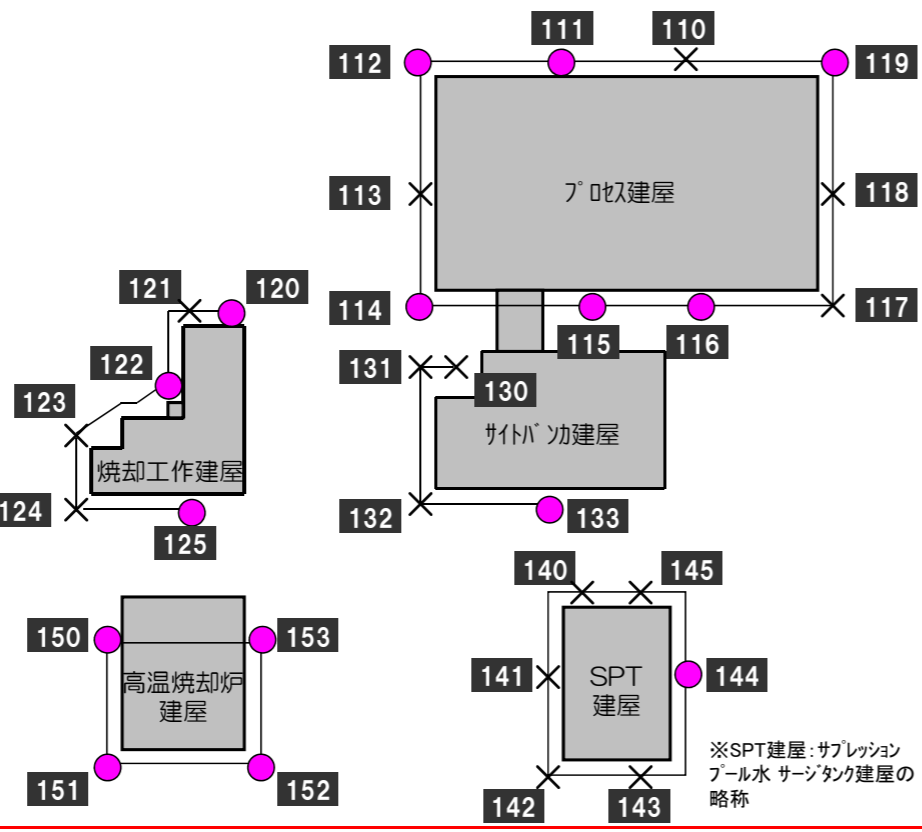
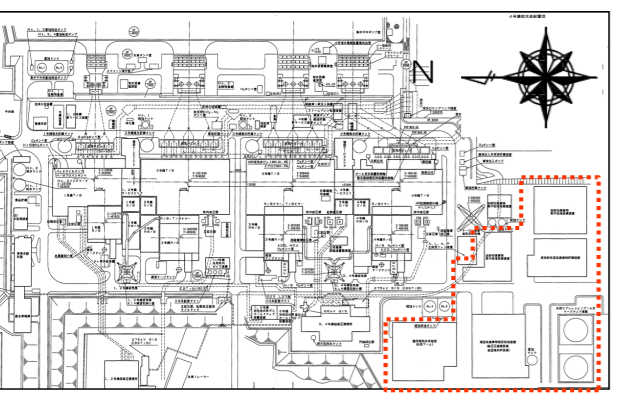


【参考】諸建屋サブドレンピットの水质調査について

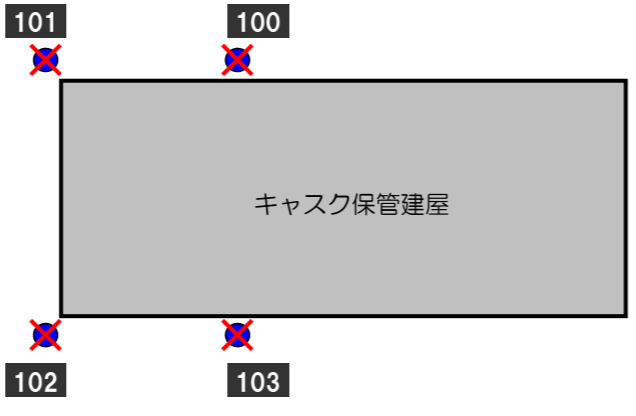
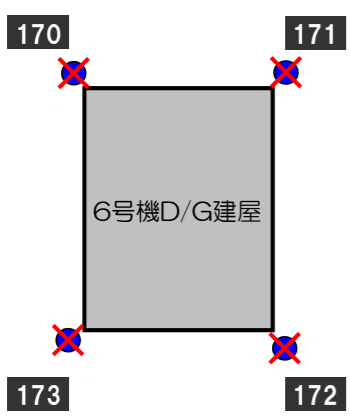
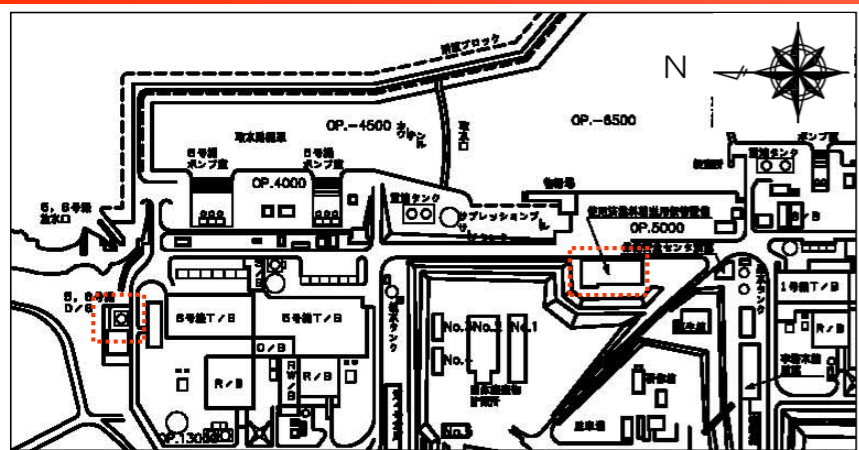
H26.1 廃炉・汚染水チーム事務局会合資料 抜粋

12月12日より、諸建屋サブドレン復旧方法立案のため、既設サブドレンピット17箇所を対象に、ピット内溜まり水の水質調査を実施。

サブドレンピット・ディープウェル配置図(5, 6号機)



# サブドレンピット配置図(その他)



: 既設サブドレンピット[未復旧4基]

: 既設サブドレンピット[未復旧4基]



【別紙】分類の考え方

- ① 「(1)調査が必要」の項目は、優先度が高いと想定されるリスクから順次調査
- ② 「(2)対策が必要」の項目のそれぞれの今後の対応方針は、下表の通り。
- ③ 「(3)対策実施中」の項目は、対策実施結果を踏まえ検証
- ④ 「(4)対策実施後の状況観察中」の項目は、状況変化があれば追加対策
- ⑤ 「(5)現状では追加対策不要」の項目のそれぞれの不要とした理由は、下表の通り。

No.	【1】リスクの存在箇所洗い出し						【追加対策の必要性確認】				
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	個別名称	対応状況	濃度 (高濃度:Ca137>10 <sup>3</sup> Bq/L、 比較的高濃度:Ca137>10 <sup>2</sup> Bq/L、 低濃度:Ca137<10 <sup>2</sup> Bq/L)	バウンダリ 型平/漏洩	優先度	今後の対応方針
8	K排水路	雨水の汚染源となるリスク その他構築物等	(2)対策が必要	建屋屋根	2号機R/Ｂ	・2号機R/Ｂ	(2)対策が必要	比較的高濃度	脆弱	早期	・シート設置や防水施工(近づけない) ・ルーフブロック撤去(取り除く) ・屋根から流出する雨水の浄化(取り除く)
9	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	設備内保水処理設備	1～4号機滞留水処理設備	・配管、ポンプ等	(2)対策が必要	高濃度	堅牢	順次	・配管漏えいリスクを低減するための小ループ化(漏らさない) ・漏れ時の影響を緩和するための建屋滞留水浄化(取り除く) ・使用しない設備(隔離済み)の残水除去(取り除く)
17	K排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	タンク・槽類	使用済燃料プール・ウェル・DSP	・1～4号機SFP ・4号機RPV・ウェル・DSP	(2)対策が必要	比較的高濃度	堅牢	順次	・プールゲート等のバウンダリ機能を点検する。(漏らさない) ・3号機プールゲートの止水機能維持できるようにプール内ガレキを慎重に撤去(漏らさない)
30	A排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	タンク・槽類	5,6号機滞留タンク(フランジタンク)	・5,6号機滞留タンク(フランジタンク)	(2)対策が必要	低濃度	脆弱	順次	・リプレスを検討。(漏らさない)
36	B・C排水路	雨水の汚染源となるリスク	(2)対策が必要	産業物置き場	水処理二次廃棄物保管場所	・吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	(2)対策が必要	比較的高濃度	堅牢	順次	・モニタリングを継続し、漏れのないことを確認する。 ・長期的に、雨水の浸入しない設備で保管する。(近づけない)
45	B・C排水路	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	タンク・槽類	汚染水等滞留タンク	・廃液供給タンク(角型タンク) ・廃液供給タンク	(2)対策が必要	比較的高濃度	堅牢	順次	・小ループ化に際して滞留水処理のループから外す。(取り除く)
72	その他排水路等	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	ピット類	逆洗弁ピット・吐出弁ピット	・5号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット ・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	(2)対策が必要	低濃度	脆弱	順次	・雨水の流入防止(近づけない) ・浄化対策(取り除く) ・たまり水の除去(取り除く)
75	地下水(開渠内)	雨水の汚染源となるリスク	(2)対策が必要	汚染土壌	汚染土壌(H4エリア周辺以外)	・1～4号機タービン建屋東側近傍の土壌 ・過去に漏えいし、回収できなかった土壌(H4エリア周辺以外)	(2)対策が必要	比較的高濃度	脆弱	早期	・汚染した地下水くみ上げ継続(漏らさない) ・土壌の回収(取り除く)
79	地下水(開渠内)	雨水の汚染源となるリスク	(2)対策が必要	その他構築物等	建屋屋根	・1号機T/Ｂ ・2号機T/Ｂ	(2)対策が必要	比較的高濃度	脆弱	早期	・シート設置や防水施工(近づけない) ・ルーフブロック撤去(取り除く) ・屋根から流出する雨水の浄化(取り除く)
110	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	ピット類	SDピット(1～4号機稼働予定ピット除く)	・1～4号機サブドレンピットNo.16(未復旧ピット)(水質調査済) ・サブドレンピットNo.16	(2)対策が必要	高濃度	脆弱	緊急	・溜まり水の汲み上げ(取り除く)
111	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	ピット類	SDピット(1～4号機稼働予定ピット除く)	・その他1～4号機サブドレン(ディーゼルウェル含む)(未復旧ピット)(水質調査済) ・1号機～4号機サブドレン	(2)対策が必要	比較的高濃度	脆弱	早期	・溜まり水の汲み上げ(取り除く)
112	地下水(開渠内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	ピット類	逆洗弁ピット・吐出弁ピット	・1～4号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット(水質調査済) ・1号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット ・4号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	(2)対策が必要	比較的高濃度	脆弱	早期	・雨水の流入防止(近づけない) ・浄化対策(取り除く) ・たまり水の除去(取り除く)
124	地下水(滞湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	建屋	建屋滞留水	・建屋滞留水(1～4号機周辺建屋以外)(水質調査済) ・5/6号機建屋滞留水 ・固体廃棄物貯蔵所(6～8号機)・管理棟	(2)対策が必要	低濃度	堅牢	順次	・5/6号機建屋滞留水を増やさない ・漏らさない対策を実施(近づけない、漏らさない)
132	地下水(滞湾内)	汚染源となるたまり水が存在するリスク	(2)対策が必要	トレンチ類	5/6号機トレンチ(水有り)	・5号機海水配管トレンチ ・5/6号機スチームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主要圧容器ケーブルダクト等	(2)対策が必要	低濃度	堅牢	順次	・たまり水の除去(取り除く)

No.	【1】リスクの存在箇所洗い出し						【追加対策の必要性確認】					
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	個別名称	対応状況	濃度 (高濃度:Cs137<sup>10</sup>8Bq/L、 比較的高濃度:Cs137<sup>10</sup>3Bq/L、 低濃度:Cs137<sup>10</sup>3Bq/L)	バウンダリ 基準/備考	優先度	今後の対応方針	
145	地下水 (港湾外)	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	建屋	(2)対策が 必要	建屋滞留水	集中RW建屋(水質調査済)	・プロセス主建屋 ・HTI建屋 ・SPT建屋	(2)対策が 必要	高濃度	堅牢	順次	・浄化対策(取り除く) ・たまり水の除去(取り除く)
150	地下水 (港湾外)	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	ビッド 類	(2)対策が 必要	SDビッド(1~4号 稼働予定ビッド除 く)	集中ラド周リサブドレン	・集中ラド周リサブドレン	(2)対策が 必要	低濃度	脆弱	順次	・溜まり水の汲み上げ(取り除く)
6	K排水路	雨水の 汚染源となる リスク	その他 構築物 等	(5)現状で は追加対 策不要	建屋屋根	震災後に設置した建屋	・サブドレン移送ポンプ建屋 ・セシウム吸着塔仮・第二依 管施設閉鎖式テント及びク レーン操作室 ・高台炉注ポンプ上屋 ・凍結プラント建屋(1),(2)/電気 品建屋 等	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・汚染のリスクが低い(事故後に設 置した屋根)
29	A排水路	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	設備内 保水水	(5)現状で は追加対 策不要	既設設備	No.2ろ過水系設備	・タンク、配管 等	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・貯留水の放射能が低濃度であるため (告示濃度以下)
60	B・C排水路	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	ビッド 類	(5)現状で は追加対 策不要	その他井戸等	電源ケーブルビッド(調査済)	・ハンドホール ・南側66kV開閉所ケーブルビ ッド ・予備室ケーブルビッド ・オーブントレンチ	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・たまり水が存在しないため
67	その他排水 路等	雨水の 汚染源となる リスク	排水路・川	(5)現状で は追加対 策不要	川	陳場沢川	・陳場沢川	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・水の放射能が低濃度であるため(告 示濃度以下) モータリングの充実に因る
73	その他排水 路等	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	ビッド 類	(5)現状で は追加対 策不要	放水路	5号機放水路 (冷却用の海水を通路として使 用中)	・5号機放水路 (冷却用の海水を通路として使 用中)	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・水の放射能が低濃度であるため(告 示濃度以下)
74	その他排水 路等	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	ビッド 類	(5)現状で は追加対 策不要	放水路	6号機放水路 (冷却用の海水を通路として使 用中)	・6号機放水路 (冷却用の海水を通路として使 用中)	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・水の放射能が低濃度であるため(告 示濃度以下)
107	地下水 (開渠内)	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	トレン チ類	(5)現状で は追加対 策不要	1-4号建屋接続 トレンチ	1-4号建屋接続 調査済トレン チ(水無し)	・2号機放射性流体用配管ダク ト ・3号機放射性流体用配管ダク ト ・1号機共通配管ダクト(北側) ・2号機共通配管ダクト 等	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・たまり水が存在しないため
108	地下水 (開渠内)	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	トレン チ類	(5)現状で は追加対 策不要	1-4号建屋未接続 トレンチ等	1-4号建屋未接続 調査済ト レンチ(水無し)	・No.1軽油配管トレンチ ・1~2号機ケーブルダクト ・1号機ボイラー室電気品室連 ラックトレンチ ・1~4号機発電機注入用蒸気 ガスポンプ室連給トレンチ ・1~4号機共用所内ボイラト レンチ 等	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・たまり水が存在しないため
118	地下水 (開渠内)	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	ビッド 類	(5)現状で は追加対 策不要	放水路	4号機放水路 (出口を閉塞済)	・4号機放水路 (出口を閉塞済)	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・たまり水が存在しないため
120	地下水 (港湾内)	作業に より発生 する水	作業	(5)現状で は追加対 策不要	作業	5-6号機周辺エリアにおける 作業に伴う放水	・自衛消防訓練による放水	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・水の放射能が低濃度であるため(告 示濃度以下)
122	地下水 (港湾内)	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	設備内 保水水	(5)現状で は追加対 策不要	既設設備	5.6号機屋内既設設備	・5.6号機各系統・設備 (配管・タンク・ポンプ等)	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・バトロール等に設備の信頼度が維 持されていることを確認したため(通常 の発電所と同等の点検・保守を実施)
125	地下水 (港湾内)	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	建屋	(5)現状で は追加対 策不要	建屋滞留水	6号機DG6B建屋	・6号機DG6B建屋	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・たまり水が存在しないため
126	地下水 (港湾内)	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	建屋	(5)現状で は追加対 策不要	建屋滞留水	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・貯留水の放射能が低濃度であるため (告示濃度以下)
129	地下水 (港湾内)	汚染源となる たまり水が 存在する リスク	タンク・ 槽類	(5)現状で は追加対 策不要	原子炉・ウェル・D SP	5.6号機RPV・ウェル・DSP	・5.6号機RPV・ウェル・DSP	(5)現状で は追加対 策不要	-	-	-	・バトロール等に設備の信頼度が維 持されていることを確認したため(通常 の発電所と同等の点検・保守を実施)

No.	【1】リスクの存在箇所洗い出し						【追加対策の必要性確認】				
	主たる流出経路	カテゴリ	対策の必要性	種類	リスクの存在箇所	個別名称	対応状況	濃度 (高濃度:Cs137>10 <sup>4</sup> Bq/L、 比較的高濃度:Cs137>10 <sup>3</sup> Bq/L、 低濃度:Cs137<10 <sup>3</sup> Bq/L)	バウンダリ 基準/備考	優先度	今後の対応方針
130	地下水 (港湾内)	汚染源となる たまり水が存在する リスク タンク 槽類	(5)現状では追加対策不要	使用済燃料プール	5, 6号機SFP	-5, 6号機SFP	(5)現状では追加対策不要				-バトリール等にて設備の信頼度が維持されていることを確認したため(通常の発電所と同等の点検・保守を実施)
131	地下水 (港湾内)	汚染源となる たまり水が存在する リスク タンク 槽類	(5)現状では追加対策不要	屋外既設タンク	5号廃液サージタンク (溶接タンク)	-5号廃液サージタンク (溶接タンク)	(5)現状では追加対策不要				-貯留水の放射能が低濃度であるため (告示濃度以下)
133	地下水 (港湾内)	汚染源となる たまり水が存在する リスク トレンチ 類	(5)現状では追加対策不要	5/6号他トレンチ	5/6号他 調査済トレンチ (水無し)	-5号機共通配管ダクト -No.3 軽油配管トレンチ -5号機重軽油配管トレンチ -5号機薬品タンク連絡ダクト -サプレッションプール水配管トレンチ 等	(5)現状では追加対策不要				-たまり水が存在しないため
137	地下水 (港湾内)	汚染源となる たまり水が存在する リスク ビット 類	(5)現状では追加対策不要	SDビット(1~4号 稼働予定ビット除く)	5, 6号機サブドレン(ディーブ ヴェル含む)(水質調査済)	-5, 6号機サブドレンビット	(5)現状では追加対策不要				-貯留水の放射能が低濃度であるため (告示濃度以下)
138	地下水 (港湾内)	汚染源となる たまり水が存在する リスク ビット 類	(5)現状では追加対策不要	SDビット(1~4号 稼働予定ビット除く)	キャスク保管建屋サブドレン	-キャスク保管建屋サブドレン	(5)現状では追加対策不要				-貯留水の放射能が低濃度であるため (告示濃度以下)
146	地下水 (港湾外)	汚染源となる たまり水が存在する リスク 建屋	(5)現状では追加対策不要	建屋滞留水	共用プール建屋	-共用プール建屋	(5)現状では追加対策不要				-水の放射能が低濃度であるため(告示濃度以下)
151	地下水 (港湾外)	汚染源となる たまり水が存在する リスク ビット 類	(5)現状では追加対策不要	その他井戸等	深井戸	-深井戸	(5)現状では追加対策不要				-貯留水の放射能が低濃度であるため (告示濃度以下)
156	港湾内	汚染源となる たまり水が存在する リスク タンク 槽類	(5)現状では追加対策不要	その他	メガフロート	-メガフロート	(5)現状では追加対策不要				-貯留水の放射能が低濃度であるため (告示濃度以下)

No.	【1】リスクの存在箇所の洗い出し			【追加対策の必要性確認】		
	カテゴリ	種類	個別名称	対応状況	優先度	今後の対応方針
163	ダストが発生するリスク	作業に伴い発生	タンク解体 フランジタンク解体・残水処理	(2)対策が必要	早期	・タンク表面への散水(飛ばさない) ・ダストの吸引(取り除く) ・タンク内面への飛散防止剤の散布(飛ばさない)
164	ダストが発生するリスク	作業に伴い発生	タンク解体 フランジタンク切断	(2)対策が必要	早期	・屋内(負圧制御)での解体(飛ばさない)
174	ダストが発生するリスク	シート破損等に伴い発生	廃棄物保管場所 仮設保管設備	(2)対策が必要	早期	・破損時の復旧に備えた事前準備(閉じ込める)
175	ダストが発生するリスク	シート破損等に伴い発生	廃棄物保管場所 瓦礫類一時保管エリア(シート養生)	(2)対策が必要	早期	・容器収納への移行(閉じ込める)
184	ダストが発生するリスク	作業・破損等によらず発生	廃棄物保管場所 瓦礫類一時保管エリア(屋外集積)	(2)対策が必要	早期	・保管形態の改善(閉じ込める)